

# かわせみ



Hachioji  
Kawasemikai

## Kawasemi



190 Kingiai

1995.8 No. 15

目次

	ページ
☆ 野鳥展開催される	2
☆ 平成7年浅川の冬鳥一斉調査結果	4
☆ " オオルリの生態数調査結果	10
☆ " カルガモ繁殖状況調査結果	13
☆ ハクセキレイの集団ねぐら	16
☆ 「街かど」 137号に八王子カワセミ会登場	16
☆ ヒメアマツバメの動向	17
☆ 鳥 信	18
☆ 初の海外(台湾)探鳥会実施	24
☆ ウオッチング・コーナー	25

◇ かわせみ	北平 章
◇ ミニ, サクチュアリ用品の作り方	栗原 勝
◇ 台湾探鳥会について	今井 達郎
◇ 台湾探鳥旅行に参加して	河村 洋子
◇ 霞ヶ浦キャンプ探鳥会	原田 佳世
◇ <del>船</del> 倉島探鳥記	古山 隆 他
◇ 入笠山探鳥会に参加して	大川 征治、香
◇ さいはて礼文島	馬場 裕
◇ 鳥の鳴き声いろいろについて	平沢 辰夫
◇ 雑木林を歩く	多摩丘陵の自然を守る会
◇ 安曇野だより	大関 豊

☆ 編集後記	41
--------	----

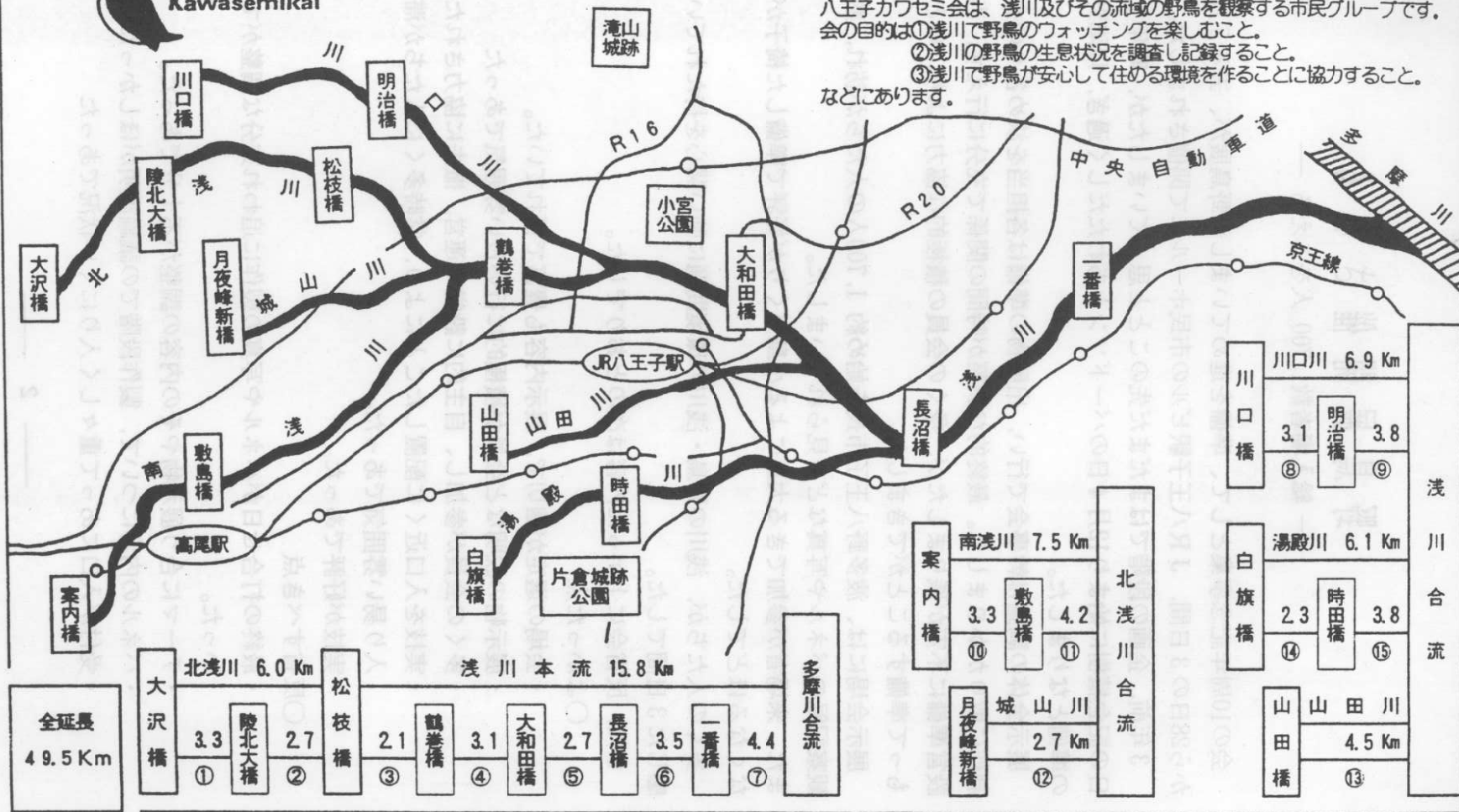
人と野鳥 とともに生きよう 浅川で



Hachiōji  
Kawasemikai

# 八王子カワセミ会の主な活動範囲 位置図

八王子カワセミ会は、浅川及びその流域の野鳥を観察する市民グループです。  
 会の目的は①浅川で野鳥のウォッチングを楽しむこと。  
 ②浅川の野鳥の生息状況を調査し記録すること。  
 ③浅川で野鳥が安心して住める環境を作ることにより協力すること。  
 などにあります。



# 野鳥展開催される

— 総入場者数1,700 人をこえる —

会の10周年記念事業として、準備を進めていました野鳥展が、去る5月26日から28日の3日間、JR八王子駅ビルの市民ホールにて開催されました。

3年前、企画の段階ではまだまだ先のこととと思っていましたが、昨年4月17日の記念植樹に始まり12月4日のバードソンとあわただしく過ぎ、以降野鳥展の準備となりました。

展示全体の調整は幹事会で行い、出展物の準備は各担当を決め各々の会員が制作に取りかかりました。最終的な調整が時間の関係で充分に行えず、当日の設営準備に不安が残りましたが、多くの会員の積極的な協力により、ゆとりをもって準備することができました。

展示会場には、波多野八王子市長を始め約1,700人の人たちが訪れ、熱心に観察記録のパネルや写真などを見られていました。

また、来場者が参加できる大豆による小鳥づくりが好評で準備した椅子が足りなくなるほどでした。

多くの人たちが、浅川の野鳥・浅川の環境問題に強い関心を持たれていると感じた3日間でした。

また、反省会上がった内容は次のとおりでした。

## ○よかった点

- ・会場の選定が適切で、展示内容も豊富で優れていた。
- ・展示物の説明など会員が積極的に行い良い雰囲気であった
- ・多くの会員が参加し、自主的に設営や運営、撤去に協力された。
- ・実技を入口近くに配置したことにより、常時多くに人たちが滞留し入り易い雰囲気であった。
- ・実技が好評であった。

## ○反省すべき点

- ・最終の打合せ日がパネルや写真の製作に追われ十分な調整ができなかった。
- ・テーマに合う展示物やその内容の調整が不十分であった。
- ・パネルの内容について、製作段階での議論説明がほしかった。
- ・受付が入口にあって重々しく入りにくい状況であった

野鳥展の会場を手配した人、材料を安く入手した人、製作の場所を提供した人、観察データの分析をした人、パネルに貼るカワセミのカットを切り抜いた人、搬入・搬出時のトラックを運転した人、パネルを熱心に説明した人、更に心温まる差し入れを届けた人 等・・・・・・

本当にご苦労さまでした。

(阿江範彦)

《出展一覧》

(1)大マップ	2,400×1,200	1枚	(9)羽	額なし	1点
(2)ソラム	4,550 ×2,12	1式	(10)実とり		2点
(3)パネル	841×594 (A1)	11枚	(11)バードガイド		1式
(4)挨拶	594×420 (A2)	1枚	(12)映像	母なる川浅川	1式
(5)写真	594×420 (A2)	16枚	(13)その他	メインサイン	1点
(6)彫金	額入り他	4点		入り口サイン	2点
(7)カービング	ジオラマ以外	18点		巣箱	1ヶ
(8)羽	A 4 六ツ切額入	7点		会報カワセミ	1式

(14)実技 豆細工による小鳥のブッチ作り

《出演した鳥たち (カービング) 》

(1)材カ	(6)カサヒ	(11)ヤマセミ	(16)ヒドリガ	(21)ササギ
(2)キジ	(7)スズメ	(12)コガ	(17)ミコアサ	(22)コサギ
(3)カセミ	(8)ヒヨドリ	(13)ハクセキレイ	(18)コチドリ	(23)アサギ
(4)材ル	(9)ジュウカラ	(14)キセキレイ	(19)クビ	
(5)カガ 親子	(10)コガラ	(15)セグロセキレイ	(20)コガラ	

# 平成7年度 浅川の冬鳥一斉調査結果

61種、11,917羽をカウント

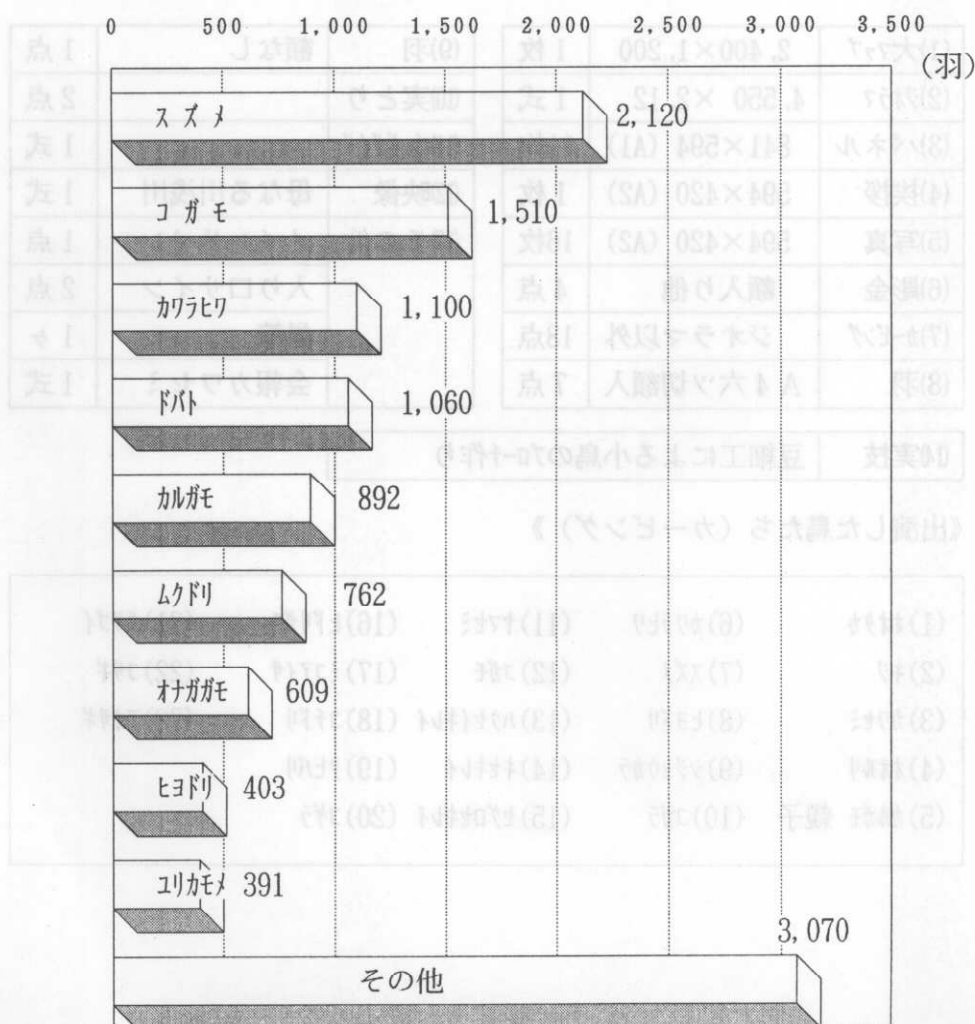
## 【1】本年度の調査結果

本年も昨年同様浅川の本・支流49.5kmを16の区域に分割して、1月8日の午前中一斉に冬鳥のカウント調査を行った。

この調査は、1984年から毎年実施しており、本年で12年目である。1984年鶴巻橋から長沼橋間5.8kmの調査から始まり、1991年以降本年と同じ調査区域となった。

結果は、(表-1)のとおり、61種、11,917羽である。この内出現数の上位9種は(図-1)のとおりである。

(図-1) 浅川に多い冬鳥上位9種



(表-1) 1995年(平成7年)カモ類他冬鳥調査

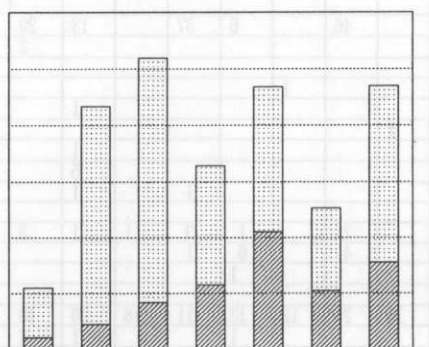
番号	名称	北浅川		浅川上流			浅川下流			川口川		南浅川		城山	山田	湯殿川		合計
		大沢	陵北	松枝	鶴巻	大和	長沼	一番	万歩	川口	明治	案内	敷島	月夜	山田	白旗	時田	
		陵北	松枝	鶴巻	大和	長沼	一番	万歩	合流	明治	合流	敷島	合流	合流	合流	時田	合流	
40	加ウ	9	2	9	10	13	13	13	23		18		3	1		1	5	120
52	子イサギ						6	10			10		3					29
57	子イサギ		8	7	3	12	5	5	3	5			2			2	2	54
59	コサギ	19	38	7	17	12	7	33	8	6			8	2		4	6	167
62	アサギ				1	5	3	1	3									13
87	マヒ			2					14			1		1				18
88	加ガヒ	38	60	24	98	44	40	75	4	52	97	63	98	48	35	36	80	892
89	コサギ	32	58	101	84	291	175	255	111	26	115		80	78	10	54	40	1,510
92	オカサギ				1				2									3
93	ヒドリ				44	82	75	44	18									263
94	アサギ				1													1
95	オカサギ		1	50	129	116	65	78	48		46		6	37		13	20	609
97	ハビロ					35	13	22									2	72
115	コサギ								5									5
120	トビ				2	2						1						5
123	オカサギ															1		1
145	チュウソク					2		1		1								4
149	コサギ		1													1		2
151	キジ	1	1		2											5		9
177	オカサギ	1	9		2	2	5	12	14					1		1		47
196	ハシ							15										15
218	イサギ		7	2	2	4	2	1	6		2		1	3	1	1	3	35
245	コサギ			7	159	65	90	23	34		4		8	1				391
246	セウカサギ				4	3	3	2	4				1					17
250	カサギ							1										1
296	キジ	20	13	13	11	33	11	10	25	15	26	12	13	11	18	26	10	267
326	カサギ		8	3	1	1		1	2				1			1	1	19
331	アサギ							1		1								2
339	コサギ		2		1			2		1	3	2			2	2	1	16
344	ヒヨ					2	3	1	3									9
354	キセキレイ	2	2		2	3	2	7		5	8	5	4	5	2	3	6	56
355	ハシ		2	8	24	18	18	13	27	8	5	2	17	18	3	26	30	219
356	セウカサギ	13	14	12	7	15	4	34	12	12	32	9	19	17	1	10	15	226
363	ヒヨ		4		6	8	9	7	6	1	2		2	1		4	5	55
367	ヒヨ	40	41	21	12	21	19	44	37	22	27	34	19	12	17	17	20	403
369	モズ	3	8	4	5	6	4	2	8	5	4	4	2		1	7	1	64
386	カサギ											1						1
387	コサギ	1	4	1	3	5	1	2	3	2	2	5	3				1	33
388	ヒヨ				1													1
405	ツグミ	13	20	23	8	32	12	8	17	9	6	8	7	4	4	18	10	199
410	ウグイス	2	2	2	2	5		1	1	1	1	2					1	20
434	エナ		26															26
425	セッカ						1											1
440	ヤマガ														2			2
441	シジュウカラ	8	55	13	7	14	6	19	17	5	9	16	4	2	25	21	6	227
444	メジロ				4	2		4		1		18		1	19		2	51
449	オカサギ	18	81	12	11	22	10	8	25		2	2	5			1		197
455	オカサギ	3	25	9			2					5						44
461	アサギ	4	26	6	7	8	1	19	1	3	4	4		1	5	9		98
464	オサユリ			1														1
471	カラビラ	19	280	340	51	82	70	65	45	13	70		9	10	5	31	10	1,100
483	ウ	1																1
486	シ	2	21	7		5		2	1	2	2				1	6		49
488	ズメ	67	210	260	133	126	100	142	262	47	120	90	190	27	65	131	150	2,120
493	ムク	11	28	99	57	68	30	46	43	43	77	38	90	32	15	55	30	762
498	オサ		1				1			3				6	9	1		21
503	ハシ	6	6	1	7	13	15	13	9	11	13	7	11	7	14	26	10	169
504	ハシ	2	19	2	7	32		13	2		4	5		1	2	12	10	111
A	アヒル						1				1	1						3
B	ドバ	30	90	47	90	56	60	107	62	11	122	34	195	5	51	50	50	1,060
C	セキセイインコ										1							1
合計(羽)		365	1173	1093	1016	1265	882	1162	905	311	833	369	801	332	307	576	527	11,917
合計(種)		26	35	30	39	38	36	42	36	27	30	25	27	26	23	32	28	61

この表は、各河川別に調査された鳥類の種別と個体数を示している。

※この表は、各河川別に調査された鳥類の種別と個体数を示している。

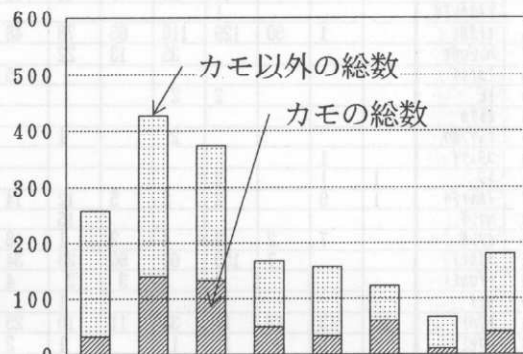
区域別1 km当りに換算して野鳥数を比較すると(図-2)とおりであり、大沢橋から陵北橋と長沼橋から一番橋の間が野鳥数が少ない結果となった。また、浅川本流と支流別1 km当りに換算して野鳥数を比較すると(図-3)のとおりで、浅川本流に野鳥数が多く山田川、城山川に少ない結果となった。

(図-2)  
各区間ごと1 km当たりの  
野鳥の総数



大 陵 松 鶴 大 長 一 合  
沢 北 枝 巻 和 沼 番 流  
橋 橋 橋 橋 田 橋 橋 部

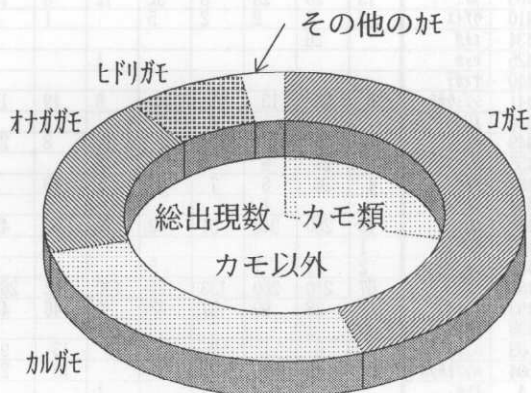
(図-3)  
浅川本流及び各支流の1 km当  
りの野鳥の総数



北 浅 浅 川 南 城 山 湯  
浅 川 川 川 川 川 田 殿  
川(上)(下) 川 川 川 川 川

全羽数11,917羽の内、カモ類は9種出現し、3,373羽で28%を占めた。

種類別では、多い順にコガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモがその上位4種でカモ類全体の97%を占めた(図-4)



(図-4) 総出現数に占めるカモ類の割合と主なカモの比率



## 【2】年次変化

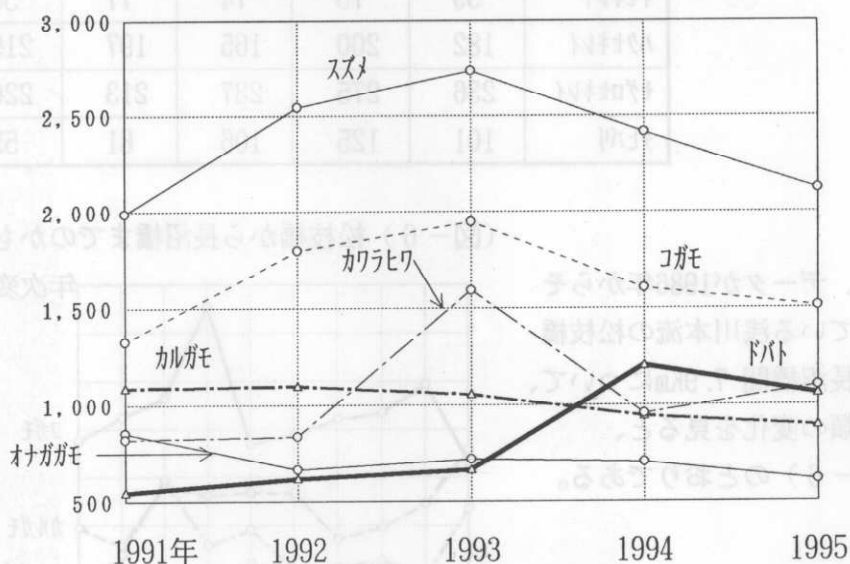
調査区域が浅川本・支流の45.9kmとなった1991年からの年次変化を見ると(表-2)のとおりで総出現数と種類数に、大きな変化はない。

(表-2) 総出現数と種類数(調査延長45.9km)

年次	調査日	総出現数	種類数	調査人数
1991年(平成3年)	1月13日	11,356羽	60種	31人
1992年(平成4年)	1月12日	12,825羽	59種	41人
1993年(平成5年)	1月10日	13,557羽	60種	46人
1994年(平成6年)	1月9日	12,787羽	60種	40人
1995年(平成7年)	1月8日	11,917羽	61種	41人

出現数の多い野鳥の年次変化は、(図-5)のとおりで上位2種は変化がなく、カルガモの減少、ドバトの増加が見られる。

(図-5) 出現数の多い野鳥の年次変化

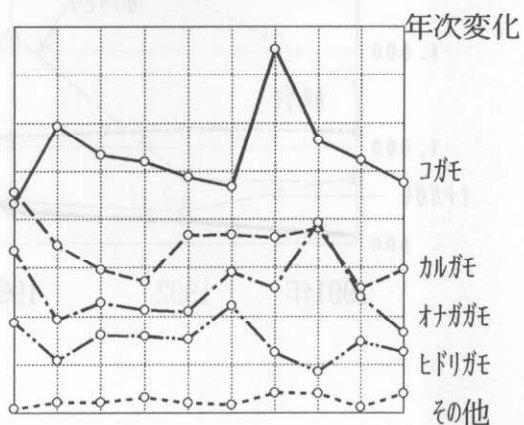


カモ類以外の水鳥、水辺の鳥の年次変化は（表-3）のとおりで、カワセミは19羽であった。（表-3）水鳥、水辺の鳥の年次変化（羽）

年	1991'	1992'	1993'	1994'	1995'
カツブリ	1	3	3	3	0
カワ	108	76	230	236	120
ゴイギ	6	4	30	11	29
ダイギ	31	28	42	74	54
コギ	54	66	93	168	167
アオギ	8	4	4	3	13
イカルドリ	22	38	26	19	47
ハマギ	5			0	15
クサギ	2	2		1	0
イソギ	23	21	27	21	35
タギ	5	2	3	4	0
セグロカモ	5	5	38	22	17
ユリカモ	881	783	659	830	391
カワセミ	13	24	14	16	19
キセキレイ	59	75	74	77	56
ハクセキレイ	182	200	165	197	219
セグロセキレイ	236	275	237	213	226
タヒバリ	101	125	106	81	55

（図-6）松枝橋から長沼橋までのかも類

なお、データが1986年からそろっている浅川本流の松枝橋から長沼橋間 7.9kmについて、カモ類の変化を見ると、（図-6）のとおりである。



1986年

1995年

【3】本年度の調査区域と調査担当者

(表-4)

区 域	延長	調査メンバー
(1)北浅川 大沢橋～陵北大橋	3.3	今井達郎
(2) " 陵北大橋～松枝橋	2.7	河村道寛 河村洋子
(3)浅川(上流)松枝橋～鶴巻橋	2.1	清水茂 福島弥四郎 小池一男 福井司郎 中村保一
(4) " 鶴巻橋～大和田橋	3.1	田中英吉 本島てるみ 登坂久雄
(5)浅川(下流)大和田橋～長沼橋	2.7	湯原直彦 竹沢ひろみ 細谷修一
(6) " 長沼橋～一番橋	3.5	山崎悠一 山崎久美子 熊坂政晃 渡嘉敷敏子 丸山二三男
(7) " 一番橋～万願寺歩道橋	2.1	馬場裕 馬場百合亜
(8) " 万願寺歩道橋～多摩川合流	2.3	阿江範彦 柚木鎮夫 柚木育子 小塩菊子
(9) 川口川 川口橋～明治橋	3.1	川戸恵一 鈴木章七 古山隆
(10) " 明治橋～浅川合流	3.8	三好恒雄
(11) 南浅川 案内橋～敷島橋	3.3	川上恵 志村進
(12) " 敷島橋～北浅川合流	4.2	榛沢務 貴家やゑ子 大塚行子
(13) 城山川 月夜峰新橋～北浅川合流	2.7	木村晴美
(14) 山田川 山田橋～浅川合流	4.5	門口一雄 門口裕子
(15) 湯殿川 白旗橋～時田橋	2.3	門口一雄 横山久美子
(16) " 時田橋～浅川合流	3.8	粕谷和夫 高橋節子
49.5 Km		41 名

(まとめ:阿江範彦)

## 平成7年 オオルリの生息数調査結果

八王子市の鳥・オオルリの生息地である山間部の自然環境の動向を見守るため、1992年以來生息数調査を毎年行っている。95年の結果は次の通りです。

### 1. 調査場所

八王子市内の丘陵地、山間部の沢筋、谷筋16区域（踏査総延長は114Km）で、具体的な調査場所は93年と殆ど同じ（会報「かわせみ」No. 11の11ページに記載）です。

### 2. 調査時期

平成7（1995）年4月下旬～6月下旬にそれぞれの区域で2～3回行った。

### 3. 調査参加会員数

第2表の通り、延べ35名の会員が調査を行った。

### 4. 結果

結果は第2表の通りであり、16区域（沢筋、谷筋）の内、14区域で合計38羽の♂を確認した。また、この他に川口丘陵、長沼公園でそれぞれ♂1羽を確認した。

4年間の動向は第1表の通りで、今年は例年より多かった。

（第1表）八王子市内、オオルリ出現数年変化

	1992	1993	1994	1995
材羽♂合計数（羽）	25	30	28	38

オオルリのカウントと同時に実施した全野鳥の調査結果は第3表の通りであり、本年は59種が出現した。8割以上の出現率を示したもの（13区域以上で出現）はコジュケイ、コガラ、キセキレイ、ヒヨドリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、オオルリ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カケス、ハシボソガ

ラス、ハシブトガラスの16種で、希少種としてはノスリ、ヤマドリ、アオバト、フクロウ、ヨタカ、トラツグミ、エゾムシクイ、キクイタダキ、コサメビタキ、サンコウチョウ、クロジ等である。

(取りまとめ：粕谷和夫)

(第2表) オオルリの調査場所別出現数(1995年)

16区域の内分	調査延長	オオルリ♂数	調査責任者	調査参加延人数
1上川	6.0Km	2羽	河村道寛	2名
2美山	12.0	0	湯原直彦	2
3小津	4.3	3	三好恒雄	1
4醍醐	4.0	1	馬場裕	2
5和田峠下	4.0	2	古山隆	1
6明王峠下	10.0	3	門口一雄	2
7力石周辺	4.5	3	山崎悠一	2
8松竹周辺	7.0	2	今井達郎	1
9元八王子	5.0	4	粕谷和夫	3
10裏高尾	6.5	2	阿江範彦	2
11小仏城山下	18.0	3	小池一男	1
12高尾山1	7.0	2	木村晴美	8
13高尾山2	5.5	5	粕谷和夫	2
14大垂水峠下	5.0	2	川上恚	2
15表高尾	7.2	4	柚木鑽夫	2
16初沢川	8.0	0	田中英吉	2
計	114.0	38		35
長沼公園	7月10日	1	山崎久美子	1
川口丘陵	5月8日	1	粕谷和夫	5

注) この他に小宮公園、長沼公園、多摩御陵で通過と思われるもの有り(鳥信欄参照)

(第3表) オオルリ出現期における全野鳥の出現状況 (○印 1995年4月下旬~6月)

	1 上 川	2 美 山	3 小 津	4 醍 醐	5 和 田 峠 下	6 明 王 峠 下	7 力 石 周 辺	8 松 竹 周 辺	9 元 八 王 子	10 裏 高 尾	11 小 仏 城 山 下	12 高 尾 山 1	13 高 尾 山 2	14 大 垂 水 峠 下	15 表 高 尾	16 初 沢 川	計 ・ 出 現 箇 所 数
	6	12	4	4	4	10	5	7	5	7	18	7	6	5	7	8	
059・コサキ								○					○				2
088・加加'モ		○			○			○	○				○	○	○	○	8
120・ヒ'		○		○								○		○		○	5
123・材タカ			○							○							2
129・ノスリ									○								1
149・ゴ'ユクイ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		14
150・ヤマト'リ				○													1
151・杉'		○	○		○		○	○									5
296・キジ'ハト		○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	12
298・アオ'ハト	○								○								2
303・ツツ'リ			○		○	○	○	○			○			○	○		10
304・ホト'キ'ス		○					○		○					○	○		5
315・フクロウ	○																1
317・ヨウカ		○		○										○			3
319・ヒメアマツ'ハ'メ													○				1
320・アマツ'ハ'メ												○					1
326・ガセミ			○									○	○				2
331・アオ'ラ	○	○		○		○	○	○		○	○	○	○				9
336・アカ'ラ	○								○								4
339・コ'ラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
347・ツ'ハ'メ	○				○	○	○	○	○		○	○	○			○	10
350・イワツ'ハ'メ		○									○	○	○				3
354・キセキ'レイ	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
355・ハセキ'レイ		○									○	○	○				2
356・セ'ロセキ'レイ			○				○	○			○	○	○				4
367・ヒヨ'トリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	16
369・モ'ス'		○												○			5
376・ミ'サザ'イ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				10
386・コ'ルリ					○												1
396・トラツ'グ'ミ			○									○					2
399・クワツ'グ'ミ	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○		13
400・アカ'ハラ		○		○													2
409・ヤ'サメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13
410・ウ'イス	○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	16
421・エ'ノ'ムシクイ											○	○	○				1
422・セ'ウ'イ'ムシクイ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
424・キウ'イ'タ'タ'キ											○	○	○				1
427・ヒ'タ'キ	○								○			○	○		○		10
430・オ'オルリ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
433・コ'サメ'タ'キ												○					1
434・サン'コウ'チョウ			○				○					○			○		4
435・エ'ガカ'	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○				8
438・コ'ガラ	○								○		○	○	○				4
439・ヒ'ガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		11
440・ヤマ'ガラ	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○			14
441・シ'ユウ'カ'ガ'	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	16
444・メ'ジ'ロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15
449・ホ'ト'シ'ロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	14
452・ク'ロシ'																	1
461・ア'ホシ'			○	○									○				4
471・カラ'ヒ'リ	○	○	○				○	○			○	○	○	○	○	○	10
485・イ'カ'ル	○	○		○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	12
488・ス'メ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
493・ム'ク'トリ		○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7
496・カ'ス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
498・オ'ガカ'		○	○				○	○	○								5
503・ハ'シ'ホ'ソ'カ'ラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13
504・ハ'シ'ホ'ト'カ'ラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13
ホ'ト'ハ'ト																	2
計 (種類数)	28	33	32	26	27	22	34	31	32	15	19	28	39	26	25	18	59

## 平成7年 カルガモ繁殖状況調査結果

浅川の本支流はカルガモの繁殖地であり、その数を1988年以来毎年カウントしている。カウント調査は昨年同様、浅川の本支流を15に区分した他、谷地川と大栗川を加え会員が分担して5月から7月の間に1～3回の現地観察によって行った。

結果は第1表及び第2表の通りで、浅川水系では親子連れファミリー数は28組、子146羽で昨年迄と比べ大幅に減少した。

本支流の内訳は第3表の通りで、浅川本流及び川口川での減少が顕著である。特に浅川本流において年々続いている減少傾向は気になるところである。また、川口川の減少は現在進行中の画一的なコンクリート護岸工事によるものと思われる。ここは東京都管理区間であるが、東京都は建設省が進めているような多自然型川作りに転換して欲しいものである。

なお、繁殖地が浅川の上流へ移っていく傾向が有り、本年もその傾向が続いた。これを最上流である北浅川・陵北大橋～東大沢橋間の今井達郎会員の観察結果でみると、

1991年は陵北大橋～元木橋間が親子を観察した最上流

92年は元木橋～夕焼け橋 々

93年は夕焼け橋～河原宿橋 々

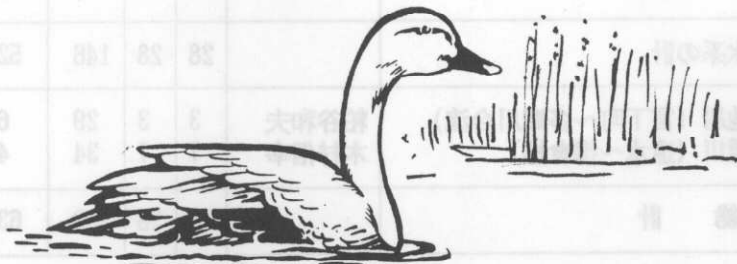
95年は松竹橋～東大沢橋 々

と年々上流に登っている

ことが明瞭である。

谷地川と大栗川の結果は第1表のとおりで、大栗川が比較的多い様に見受けられる。

(取りまとめ：粕谷和夫)



(第1表) 平成7年カルガモ繁殖期カウント結果

(単位:組、羽)

	担当者	親子連れ			単独成鳥数	カルガモ数総計	
		組数	親数	子数			
北 浅 川	1 大沢橋～陵北大橋	今井達郎	2	2	6	21	29
	2 陵北大橋～松枝橋	河村道寛	2	2	17	22	41
	計		4	4	23	43	70
浅 川 本 流	3 松枝橋～鶴巻橋	清水茂	3	3	9	62	74
	4 鶴巻橋～大和田橋	田中英吉	1	1	10	69	80
	5 大和田橋～長沼橋	湯原直彦	2	2	9	47	58
	6 長沼橋～一番橋	山崎悠一	2	2	12	76	90
	7 一番橋～多摩川合流	阿江範彦	2	2	15	50	67
計		10	10	55	304	369	
川 口 川	川口橋～明治橋	古山隆	1	1	5	26	32
	明治橋～浅川合流	三好恒雄	0	0	0	34	34
	計		1	1	5	60	66
南 浅 川	案内橋～敷島橋	川上恚	1	1	6	12	19
	敷島橋～浅川合流	小池一男	3	3	13	26	42
	計		4	4	19	38	61
12城山川 (月夜峰新橋～浅川合流)		木村晴美	3	3	11	19	33
13山田川 (山田橋～浅川合流)		門口一雄	0	0	0	6	6
湯 殿 川	14白旗橋～時田橋	三富恒男	3	3	15	20	38
	15時田橋～浅川合流	加藤岸男	3	3	18	32	53
	計		6	6	33	52	91
浅川水系の計			28	28	146	522	696
16谷地川 (宮下町～多摩川合流)		粕谷和夫	3	3	29	60	92
17大栗川 (遣水～横倉橋)		木村信幸	7	7	34	49	90
総 計			38	38	209	631	878



担当者以外の調査参加者：

- 1：馬場裕・百合亜、2：河村洋子、3：福島弥四郎、4：榛沢努、5：湯原ひろみ、  
6：山崎久美子、12：小沢礼子、17：木村明子

(第2表) 浅川水系におけるカルガモの繁殖状況年次変化 単位：組、羽

年次	親子連れ				単独成鳥	総計
	組数	親数	子数	平均子数		
1988	52	52	276	5.3	402	730
89	45	49	228	5.1	379	656
90	84	88	451	5.4	594	1133
91	57	61	318	5.6	537	916
92	44	58	272	5.0	452	782
93	48	49	254	5.3	633	936
94	48	49	275	5.7	623	947
95	28	28	146	5.2	522	696

(第3表) 浅川水系の本支流カルガモの親子連れ組数年次変化 単位：組

年次	北浅川	浅川本流	川口川	南浅川	城山川	山田川	湯殿川	合計
1988	2	30	13	2	0	1	4	52
89	0	18	7	6	9	1	4	45
90	2	36	15	11	9	1	10	84
91	2	22	10	5	5	1	12	57
92	3	24	5	4	6	1	11	54
93	4	19	5	5	7	1	7	48
94	5	18	9	6	4	1	5	48
95	4	10	1	4	3	0	6	28

## ハクセキレイの集団ねぐら



八王子市横山町3丁目の三角広場にあるハクセキレイの集団ねぐら（ヤマモモ及びクスのノキ）からの朝の飛び出し数、今期のカウント結果は次の通りでした。この内、6月の71羽は過去6年間（90～95年）の6月期では最高でした（田中英吉）。

（単位：羽）

時間	3:31	4:01	4:31	5:01	5:31	6:01	6:30	合計
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
年月日	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	
95'1.25						380	8	388
2.27					268	4		272
3.31			77	78				155
4.29		21	58					79
5.31	34	15						49
6.30	4	67						71

### 「街かど」137号に八王子カワセミ会登場

1995年5月13日、新緑の高尾山で行われた「四季の会（谷合侑代表）」主催による眼の不自由な方のための探鳥会（パードリスニング）に八王子カワセミ会の有志が支援した時の模様が「街かど」137号に収録されています。これは八王子朗読の会「灯」というグループが発行しているカセットテープのシリーズです。同グループは視覚障害の方に図書館や盲学校で本を読んだり、テープを作ったりというボランティア活動を行っています。当日同会の大城さんが参加し、収録・編集したもので、5月23日に発行された第137号B面のウォッチングコーナーに18分間収められています。このテープは八王子市立図書館で貸し出しを行っています。粕谷が1本預かっていますので、一度試聴してみてください。

## ヒメアマツバメの動向

東浅川の京王線高架下コロニーは昨年末に分散した。その後の動向は次の通りです。  
なお、このデータは観察日において観察者に確認されたことだけを取りまとめたものである。

### 1. 東浅川京王線高架下（川上恚調査）・・・昨年末迄6年間継続した所

- 1月30日・朝 出巢確認できず
- 4月22日・夕 数羽が上空を旋回
- 5月6日・夕 6羽の入巢を確認\*小規模ながら復活した



### 2. 東浅川小学校（川上恚調査）

- 1月30日・夕 1羽の飛翔を確認したため、校舎を調査したところ、4階建て屋根下のツバメの巣38個の中央部1個に羽毛が一杯着いたヒメアマツバメの巣を発見

### 3. 京王線高尾駅付近（川上恚調査）

- 1月26日・朝 使用中と思われる巣4個有ったが、出巢確認出来ず
- 4月20日・夕 6~8羽の帰巣を確認\*巣4個\*回りにツバメ 約30羽造巢中

### 4. 八王子高校体育館高床の下・ピロティ（川上恚調査）

- 1月28日・夕 21~23羽の帰巣を確認\*巣17個
- 4月19日・夕 8~12の帰巣を確認\*巣10個\*回りにツバメ 約70~80羽造巢中

### 5. 浅川・中央高速道橋下（福井司郎・雅美調査）

- 1月7日・夕 2羽の帰巣を確認\*巣1個
- 3月11日・夕 1羽の帰巣を確認\*巣1個
- 3月12日・5時30分~6時50分 昨夜の1羽の出巢を確認出来ず
- 4月8日・朝及び夕 朝の出巢、夕の帰巣を確認出来ず
- 5月26日・夕 使用中の巣2個に増加、帰巣1羽を確認
- 5月27日・朝 5時30分に2羽飛びだし、5時45分に1羽戻り、6時8分に1羽飛び出す・前から有った1個の巣で繁殖の様子有り

### 6. 浅川・浅川大橋下（田中英吉調査）

- 6月10日・朝 出巢確認出来ず

### 7. 南大沢駅北（木村信幸調査）

- 2月4日・朝及び夕 朝4羽の出巢、夕8羽の帰巣を確認\*巣4個（4個の他にヒメアマツバメの死骸が見られる巣2個を確認\*内1つはヒモで釣り下がっていた）
- 4月16日・朝及び夕 朝の出巢6羽、夕の帰巣8羽を確認\*巣5個・内1個は営巣の可能性有り（出入り有り）

# 鳥信 (主として1995年1月から6月)



## 1. 夏鳥の初認 (種類別に最も早かったものを載せました)

054・サゴイ	95.04/22	1羽	浅川・浅川橋付近	小山万太郎
347・ツハメ	95.03/21	1羽	浅川・萩原橋付近	福島弥四郎
350・ワツハメ	95.03/21	5羽	浅川・滝合橋付近	山崎久美子
410・ウグイス	95.02/19	1羽	北浅川・松枝橋下流側河原*囀り	粕谷和夫
416・オヨシキリ	95.05/04	♂1羽	浅川・川口川合流付近河原	粕谷和夫
425・セッカ	95.04/05	♂1羽	浅川・萩原橋上流側河原*囀り	福島弥四郎

## 2. 通過

207・アサギ	95.05/21	1羽	谷地川・鶴巻橋付近*石川町	粕谷和夫
380・コマドリ	95.04/22	1羽	長沼公園*囀りで確認	馬場裕・百合亜
409・ヤブサメ	95.05/02	数羽	八王子市堀之内宮嶽の谷戸*さずり	粕谷和夫
421・エゾムシクイ	95.05/04	2羽	高尾山・日影沢*姿確認、ヒツツキ・ヒツツキと鳴く	小池一男
422・セントアイムクイ	95.05/22	1羽	長沼公園*囀りで確認	馬場裕・百合亜
427・ヒメトビ	95.04/29	♂1羽	片倉城跡公園・住吉神社南側土手	小池一男
427・ヒメトビ	95.05/06	♀1羽	八王子市大谷町大善寺墓地東側雑木林	小池一男
430・材刈	95.04/23	♂2羽	小宮公園	小宮公園支援探鳥会
430・材刈	95.04/22	1羽	長沼公園*囀りで確認	馬場裕・百合亜
430・材刈	95.05/02	♂1羽	多摩御陵内	湯原直彦
430・材刈	95.05/22	1羽	長沼公園*囀りで確認	馬場裕・百合亜
433・コササギ	95.04/23	数羽	小宮公園	小宮公園支援探鳥会

## 3. 稀少種

①オ・ロウネンが多摩川滝山下の河原で越冬した。②アサギが高尾山に出た。③メルの飛来が多かった。④ヘミマコが①と同じ場所に出た。⑤ヒメトビが浅川・萩原橋付近の河原で越冬した。

005・カイツリ	95.02/01	1羽	浅川・新浅川橋上流側	小山万太郎
005・カイツリ	95.02/24	1羽	北浅川・陵北大橋下	粕谷和夫
040・カウ	95.03/05	1羽	北浅川・陵北大橋上空	今井達郎・前田善明
040・カウ	95.05/21	1羽	谷地川・鶴巻橋付近*石川町	粕谷和夫
079・コウチヨウ	95.04/27	1羽	多摩川・滝山城跡下水管橋付近	三好恒雄
092・カヨシカモ	95.02/18	♂♀各1	浅川・北野清掃工場前	湯原直彦・ひろみ
099・ホシバシロ	95.03/19	♀1	浅川・中央線鉄橋下流側	湯原直彦・ひろみ
115・ミアイ	95.02/18	♀1羽	浅川・北野清掃工場前	湯原直彦・ひろみ
150・ヤマドリ	95.07/01	1羽	上恩方・醍醐川	馬場裕・百合亜
160・クイナ	95.01/21	1羽	浅川・大和田橋下流側*河原の小さな水溜まり	小山万太郎
160・クイナ	95.03/21	1羽	浅川・長沼橋下流側右岸水門付近	山崎久美子
160・クイナ	95.03/29	1羽	片倉城跡公園*湿地状の所で餌を取りアシの中に落ちる	尾又英雄
167・ハシ	95.06/05	1羽	浅川・中央線鉄橋下流側	小山万太郎
191・オ・ロウネン	95.01/28	1羽	多摩川・滝山城跡下水管橋付近	三好恒雄
196・ハマシ	95.02/12	35羽	浅川・ふれあい橋~一番橋	月例探鳥会
196・ハマシ	95.03/19	15羽	浅川・長沼橋付近	湯原直彦・ひろみ
214・クサシ	95.02/24	2羽	多摩川・滝山城跡下水管橋付近	三好恒雄
218・インシ	95.05/03	2羽	北浅川・元木橋~夕焼け橋	今井達郎・関根伸一・光世

230・タキ'	95.02/04	1羽	北浅川・松竹橋下流200m	今井連郎、馬場裕
230・タキ'	95.03/05	1羽	北浅川・松竹橋下流150m	今井連郎、前田善明
230・タキ'	95.06/17	1羽	浅川・山田川合流付近	湯原直彦・ひろみ
246・ヒノカキ	95.01/27	1羽	湯殿川・白旗橋～時田橋	三宮恒男・智津子
298・アハト	95.05/09	声	今熊山	河村道寛・洋子
298・アハト	95.06/03	数羽	八王子城趾奥*声のみ	粕谷和夫、井手龍世
315・フクロ	95.05/09	声	今熊山	河村道寛・洋子
317・ヨカ	95.05/13	1羽	上恩方・醍醐川	馬場裕・百合亜
317・ヨカ	95.05/13	1羽	案内川上流・大垂水峠下	川上恚・小池一男
317・ヨカ	95.05/28	声	美山・山入川	湯原直彦・ひろみ
317・ヨカ	95.06/04	声	元八王子・霧が丘住宅付近	川上恚
317・ヨカ	95.06/10	1羽	八王子市小津町・最奥集落*杉林	川上恚
319・ヒメアマツハメ	95.03/29	3羽	多摩川・滝山城跡下水管橋付近	三好恒雄
320・アマツハメ	95.03/29	1羽	多摩川・滝山城跡下水管橋付近	三好恒雄
320・アマツハメ	95.06/24	1羽	長沼公園	馬場裕・百合亜
323・アカショウビソウ	95.05/20	1羽	高尾山・ケブ'幼・頂上駅と2号路入口迄の間、北側の谷下から声を聞く・東京都鳥獣保護員佐々木洋氏指導の探鳥会で	横山由美子
330・アライ	95.02/11	1羽	北浅川・元八コミュニティセンター前の河原	河村道寛・洋子
330・アライ	95.03/27	1羽	浅川・松枝橋上流200m右岸河原の草むらから飛び出し5mの距離の木に止まる	河村洋子
336・アカガラ	95.01/21	1羽	長沼公園・北向きの斜面の林	馬場裕・百合亜
336・アカガラ	95.02/18	1羽	長沼公園	馬場裕他4名
336・アカガラ	95.02/20	1羽	山田川沿い緑町公園	粕谷和夫
336・アカガラ	95.02/24	1羽	北浅川・陵北大橋付近	粕谷和夫
336・アカガラ	95.03/29	2羽	多摩川・滝山城跡下水管橋付近	三好恒雄
336・アカガラ	95.04/09	1羽	北浅川・浅川溪谷	月例探鳥会
336・アカガラ	95.05/06	1羽	北浅川・左戸～松竹右岸側の山	今井連郎
336・アカガラ	95.05/09	声	今熊山	河村道寛・洋子
336・アカガラ	95.06/03	1羽	城山川・八王子城趾付近	粕谷和夫、井手龍世
346・ショウトウツハメ	95.06/29	2羽	多摩川・滝山城跡下水管橋付近	三好恒雄
360・ヒノス'イ	95.02/04	1羽	北浅川・陵北大橋上流100m	今井連郎、馬場裕
360・ヒノス'イ	95.04/08	1羽	川口川・唐犬橋付近	粕谷和夫他3名
387・ムヒ'タキ	95.01/02	♂1♀1	長沼橋公園	小池一男
386・ムヒ'タキ	95.02/04	♀1	北浅川・松竹橋下流400mの松林	今井連郎、馬場裕
386・ムヒ'タキ	95.04/05	♂1羽	小宮公園	尾又英雄
388・ヒ'タキ	95.01/08	1羽	浅川・萩原橋付近の河原	登坂久雄、田中英吉、本島てるみ
396・トラツク'ミ	95.01/22	1羽	小宮公園*グリーンホール前で姿	小宮公園支援探鳥会
396・トラツク'ミ	95.05/06	声	小津・入山川上流	三好恒雄
396・トラツク'ミ	95.06/03	声	高尾山・蛇滝上付近	粕谷和夫
398・イノト'リ	95.01/31	♀1羽	JR八王子駅東側貨車線路上	川上恚
400・アカハラ	95.05/13	4羽	醍醐川	馬場裕・百合亜
400・アカハラ	95.05/28	1羽	美山・山入川上流	湯原直彦・ひろみ
415・ヨシキリ	95.06/04	1羽	浅川・浅川大橋下流側	古山隆、馬場裕
415・ヨシキリ	95.06/10	♂1羽	浅川・高幡橋上流側の河原*アシ原で材ヨキリ、材'ロの近くにいた	粕谷和夫
416・材ヨシキリ	95.05/06	♂1羽	八王子市石川町・住宅用地の沼のアシ原	小池一男

416・材ヨシサリ	95.05/21	♂1羽	谷地川・国道18号左入付近	粕谷和夫
416・材ヨシサリ	95.06/03	♂1羽	八王子市堀之内	粕谷和夫
424・サコウチョウ	95.01/21	10羽	長沼公園	馬場裕・百合亜
424・サコウチョウ	95.01/22	数羽	小宮公園	小宮公園支援探鳥会
424・サコウチョウ	95.02/18	4羽	長沼公園	馬場裕他4名
424・サコウチョウ	95.02/20	数羽	山田川沿い緑町霊園	粕谷和夫
424・サコウチョウ	95.04/01	8羽	長沼公園・カラ類と混群	馬場裕・百合亜
424・サコウチョウ	95.04/13	数羽	高尾山6号路	木村晴美他
433・サコウチョウ	94.06/26	数羽	八王子市小津	古山隆
注) これは94年の追加分デス				
433・サコウチョウ	95.05/13	1羽	高尾山・蛇滝上付近	粕谷和夫
434・サコウチョウ	94.06/05	1番	八王子市小津	古山隆
注) これは94年の追加分デス				
434・サコウチョウ	95.05/06	声	八王子市小津	三好恒雄
434・サコウチョウ	95.05/14	声	恩方・駒木野沢上流*林道が二股に分かれる手前	山崎悠一・久美子
434・サコウチョウ	95.05/27	声	恩方・駒木野沢上流*林道が二股に分かれる手前	山崎悠一・久美子
434・サコウチョウ	95.06/03	4羽	八王子城跡*2羽は御主殿跡付近、内♀1羽を間近に見る、2羽は城山頂上付近	粕谷和夫、井手龍世
439・ヒカウ	95.02/18	10羽	長沼公園	馬場裕他4名
440・ヤガラ	94.11/23	数羽	小宮公園*北側高台の木立	小山万太郎
注) これは94年の追加分デス				
452・カシ	95.05/13-07/01	1羽	醍醐川上流付近	馬場裕・百合亜
472・セウ	95.02/12	20羽	浅川・川口川合流付近・中野橋下の河原*カササギの実を食べる	小沢礼子
472・セウ	95.02/19	12羽	川口川沿い清水公園*カササギの実を食べる、木の約2m迄近づける	粕谷和夫
472・セウ	95.03/19	21羽	八王子市松木*ユウウチ造成地	木村信幸
472・セウ	95.04/01	4羽	北浅川・松竹公園	今井達郎、前田善明
472・セウ	95.04/08	10羽	浅川・ふれあい橋南自転車置き場の林	門口一雄・裕子
472・セウ	95.04/22	23羽	長沼公園*ハンノキの花穂を採餌中	馬場裕・百合亜
481・ベニマシコ	95.01/03	2羽	多摩川・滝山下*水管橋	古山隆
481・ベニマシコ	95.03/12	♂1羽	多摩川・滝山下*水管橋	月例探鳥会
483・ウツ	95.01/21	2羽	長沼公園*尾根中央広場で鳴き交わす	馬場裕・百合亜
483・ウツ	95.02/18	1羽	長沼公園	馬場裕他4名
483・ウツ	95.03/02	♂1羽	めじろ台・万葉公園*盛んに桜の蕾を啄み、時々鳴く	尾又英雄
483・アケボノ	95.03/02	♂2♀1	ウン♂1と同じ場所、同じ行動	尾又英雄
496・カス	95.01/02	1羽	長沼橋公園	小池一男
ワカビチョウ	94.05/01	1羽	案下川・下案下バス停付近*カゴ抜け	古山隆
注) 会報「かわせみ」No. 13、23ページの「カゴ」をこの「ワカビ」に訂正します。				

#### 4. 託卵鳥

302・カク	94.06/11	1羽	川口川・山王橋付近の林	古山隆
注) これは94年の追加分デス				
302・カク	95.06/10	声	浅川・長沼橋上空*長沼公園方面へ	山崎悠一・久美子
302・カク	95.06/15	声	八王子市天神町	粕谷和夫
302・カク	95.06/15	声	八王子市犬目町・清水公園	鈴木章七

302・カゴ	95.05/28	声	湯殿川・白旗橋～時田橋	三富恒男・智津子
302・カゴ	95.06/21	声	湯殿川・白旗橋～時田橋	三富恒男・智津子
302・カゴ	95.06/24	1羽	長沼公園	馬場裕・百合亜
304・朴キ'ス	95.05/31	1羽	八王子市中野上町上空*深夜鳴き声	古山隆
304・朴キ'ス	95.06/15	声	八王子市川口町・住宅地	川戸恵一
304・朴キ'ス	95.06/17	声	川口川・高尾橋～唐犬橋	粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一

## 5. ワシタカ類

123・材効	95.02/04	1羽	北浅川・夕焼け橋上流側300m左岸の木	今井達郎、馬場裕
123・材効	95.03/05	1羽	北浅川・陵北大橋北東の山に立つアケテ	今井達郎、前田善明
123・材効	95.05/06	1羽	小津・入山川上流	三好恒雄
123・材効	95.05/20	1羽	川口川・川口橋付近*ホバーリング	粕谷和夫他3名
126・バ'効	95.06/03	1羽	北浅川・松竹橋付近上空	馬場裕・百合亜
129・ノリ	95.02/11	1羽	川口川・川口橋付近*ホバーリング	粕谷和夫、古山隆、鈴木章七
129・ノリ	95.03/09	1羽	多摩川・浅川合流部	阿江範彦
129・ノリ	95.05/20	1羽	城山川・八王子城趾付近	粕谷和夫、鈴木章七、井手龍世
145・フォウ'ホ'ウ	95.03/19	♂1羽	浅川・大和田橋付近	湯原直彦、ひろみ
145・フォウ'ホ'ウ	95.06/21	4羽	八王子市子安町・ビル屋上電波塔*電波塔から離れては直ぐ戻るという飛翔訓練を暫く行った後、飛び去る	川上憲

## 6. 繁殖

特'のコロニ	95.06/10	1年目の集団	日野市西平山4丁目・浅川の中央線鉄橋付近、豊田側南面の梅林に接する竹藪*コ'イキ'約30羽、コ'特'4羽(コ'イキ'の巣4個以上有り)	粕谷和夫	
特'のコロニ	95.06/10	2年目の集団	日野市西平山5丁目・旭が丘小学校下の竹藪	*ゴイサギ約100羽、コサギ約10羽(ともに巣立ち直前の雛有り)	粕谷和夫
052・コ'イキ'	95.02/19	11羽	浅川・平山橋北の林*コロニー	山崎悠一・久美子	
059・コ'サギ'	95.04/15	1羽	浅川・新浅川橋付近*巣材を食えて運ぶ	湯原直彦、ひろみ	
123・材効	95.2~7	1番	某所で2羽巣立ち	粕谷和夫他	
125・カ	95.04/09	1番	八王子市藤森公園*鳴き交わし合い	湯原直彦、ひろみ	
151・キ'	95.06/09	親子	浅川・鶴巻橋下流側左岸河原*♀でなく♂親1羽が5羽の子を連れていた	福島弥四郎	
151・キ'	95.07/09	親子	浅川・陵北大橋～松枝橋*親1、子2	河村道寛・洋子	
177・カ'ホ'ト'リ	95.05/14	親子	浅川・浅川橋上流側*親1、雛1の子連れ	古山隆	
296・キ'ハ'ト	95.02/08	2羽	川口川・清水橋下流100m*交尾	清水茂	
315・ワ'ロウ	95.05/08	1番	川口地域*営巣ヒナ有り	福島弥四郎他	
326・カ'ヒ	95.02/24	3羽	北浅川・陵北大橋下流側・♂1羽、♀2羽同じ枝に止まり、盛んに鳴き交わす。♀が移動すると2羽の♂が後を追う。♂同士の争いは無い。ペア形成行動か?	粕谷和夫	
326・カ'ヒ	95.06/17	1羽	川口川・山王橋上流側*巣立ちヒナ	粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一	
354・セ'キ'レイ	95.04/08	1羽	川口川・片井戸橋付近*巣材を運ぶ	粕谷和夫他3名	
354・セ'キ'レイ	95.04/08	1番	川口川・片井戸橋付近*巣材を運ぶ	粕谷和夫他3名	
354・セ'キ'レイ	95.05/22	数組	長沼公園*子連れファミリー	馬場裕・百合亜	
354・セ'キ'レイ	95.06/03	多数	北浅川・東大沢橋～陵北大橋*巣立ちヒナの混じったグループ多数	馬場裕・百合亜	
356・セ'ロ'セ'レイ	95.05/20	数羽	川口川・川口橋～明治橋*巣立ちヒナ	粕谷和夫他3名	
369・エ'	95.04/02	1番	浅川・松枝橋～鶴巻橋*交尾	福島弥四郎、清水茂	

367・ヒョトリ	95.05/22	数組	長沼公園*子連れファミリー	馬場裕・百合亜
367・ヒョトリ	95.06/24	親子	長沼公園*子連れ	馬場裕・百合亜
369・モス	95.04/08	1番	川口川・宮田橋付近*ペアリング(♀が甘えるしぐさ)	粕谷和夫他3名
409・ヤブサメ	95.06/24	数羽	八王子市堀之内・谷戸奥の雑木林*この時期にいることは繁殖の可能性有り	粕谷和夫
409・ヤブサメ	95.06/24	2羽	長沼公園*声(繁殖の可能性有り)	馬場裕・百合亜
461・ジジュウカ	95.04/08	1番	川口川・片井戸橋付近*巣材を運ぶ	粕谷和夫他3名
441・ジジュウカ	95.05/22	数組	長沼公園*子連れファミリー	馬場裕・百合亜
441・ジジュウカ	95.06/24	親子	長沼公園*数組の子連れ	馬場裕・百合亜
471・カネウ	95.05/30	1番	浅川・市役所付近の住宅の庭*営巣ヒナに給餌	福島弥四郎
488・スズメ	95.05/22	数組	長沼公園*子連れファミリー	馬場裕・百合亜
488・スズメ	95.06/24	親子	長沼公園*数組の子連れ	馬場裕・百合亜
493・ムクドリ	95.04/15	2羽	浅川・長沼橋付近*巣材を食ふ	湯原直彦・ひろみ
503・ハネソカラス	95.02/19	1番	浅川・平山中学校前の電柱*抱卵中	山崎悠一・久美子
503・ハネソカラス	95.03/19	1番	浅川・山田川合流付近*巣作り中	湯原直彦・ひろみ
503・ハネソカラス	95.04/01	1番	北浅川・元木橋上流100m右岸の樹上*抱卵中	今井達郎
503・ハネソカラス	95.04/01	1番	北浅川・夕焼け橋南側林地の樹上*抱卵中	今井達郎
503・ハネソカラス	95.04/08	1番	北浅川・元八市民センター*抱卵中	河村道寛・洋子
503・ハネソカラス	95.04/23	1番	湯殿川・稲荷橋際*稲荷神社が育種中	粕谷和夫
504・ハシブトガラス	95.04/23	1番	小宮公園*抱卵中	門口一雄

## 7. 行動

040・カウ	95.03/11	1羽	川口川・観音橋右岸上空をホバリング、カラス2羽の攻撃を受ける(鷲鷹の様な行動)	粕谷和夫、鈴木章七
089・カモ	95.01/07	数羽	川口川・高尾橋付近*オナガガモの採餌(逆立ち)	粕谷和夫
461・ジジュウカ	95.04/08	2羽	川口川・高尾橋付近*スモモの花の中をたべる(花びらは食べない)	粕谷和夫他3名
498・ツカ	95.06/09	1羽	浅川・大和田橋際*オナガがハシボンガラスを追って2回つつく	小山万太郎

## 8. その他

キレいの仲間	95.01/05	1羽	北浅川・河原宿橋の下流、放流口付近でエサを啄んでいた・ツカガキキレいの冬羽?(背は濃いグレー、腹は淡いグレー、尻の下部は淡い黄色)	阿部仁志
ウカイル	95.05/14	声	浅川・上巻分方小付近	河村道寛・洋子
カガイル	95.05/03	声	北浅川・陵北大橋の下、河原宿橋付近、深沢橋~大沢橋で多数	今井達郎、関根伸一・光世
カガイル	95.06/03	声	北浅川・大沢橋~陵北大橋	馬場裕・百合亜
カガイル	95.04/08	声	北浅川・元八市民センター前	河村道寛・洋子
カガイル	95.05/13	声	案内川・ごん助裏	川上憲、小池一男
カガイル	95.05/20	声	川口川・山王橋付近	粕谷和夫他3名
カガイル	95.06/18	数匹	小仏川・高尾梅林付近*鳴いている姿を観察	粕谷和夫、鈴木章七
シュレゲルアカカイル	95.06/17	声	川口川・唐犬橋付近	粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一
ヤカガシ	95.06/17	1匹	川口川・川中新橋付近の田の畦	粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一
リス	95.04/01	1頭	長沼公園	馬場裕・百合亜



## 鳥 信 (追加分)

472・マヒワ 95. 4. 22. 20羽 八王子市堀之内宮の谷戸

416・オオヨシキリ 95. 5. 10 1羽 浅川・浅川橋下流100m

304・カッコウ 95. 7. 2 1羽 八王子市南大沢3丁目

情報提供者は 嶋崎太郎君 (南大沢3-13-2-501) でした。

### 鳥信をお寄せ下さい

浅川を中心として、あなたの住んでいる地域などで

(1) 渡り鳥の初認, 終認 (2) 留鳥, 繁殖の確認

(3) 貴重種の出現 (4) 他の動植物の現状

等について、下記要領でご連絡をお願いします。

(1) 種名 (2) 日・時 (3) 場所 (4) 羽数

(5) 発見、確認した時の状況：同行者：写真 (有れば)

報告先・八王子市天神町3-6 粕谷和夫 (会長)

☎. 0426-22-9342

※ 郵便で連絡して下さい。

## ベニサンショウクイ、ゴシキドリ等58種を賞鳥

(八王子カワセミ会、初の海外探鳥会を台湾で実施)

1. 日程 1995年3月18日～3月21日(3泊4日)
2. 場所 3月18日 台北→台中(バスで移動、田植え直後の水田を車中から)  
19日 午前：八仙山で溪流とその付近の鳥、谷関温泉で山麓の鳥  
午後：台中→台北(バスで移動)  
20日 午前：鳥来で溪流とその付近の鳥  
午後：台北植物園で公園と平地林の鳥、新店川で川の鳥  
21日 午前：台北市内で市街地の鳥、午後帰国
3. 参加者 10名・阿江範彦、今井達郎、粕谷和夫、門口一雄、川上志、河村洋子、田中英吉、馬場百合亜、三好恒雄、山崎悠一
4. 全出現種数 58種(八仙山・谷関；33種、鳥来：20種、植物園：14種、新店川；12種、台北市内：7種)

### 5. 場所別状況とベスト鳥

#### (1) 八仙山・谷関温泉発電所事務所付近

八仙山は台中からバスで2時間弱。探鳥地はこの山の標高800m付近、山の中腹で溪流地。有料の森林浴、賞鳥路が整備されていて、山荘もあった。もう一度来る機会があればこの山荘に泊まってここでじっくりと鳥を見たい所。谷関は八仙山の隣にあり、発電事務所あたりは果樹園になっていた(ベニサンショウクイ、カワビタキ、ヒメオウチュウ、カヤノボリ、クロヒヨドリ)。

#### (2) 鳥来

台北からバスで1時間程度の所。溪流沿いの温泉地で塩原温泉のような感じ。温泉場より上に登った所に賞鳥路(標高200m位)が整備されていた(ルリチョウ、カンムリワシ、台湾オオタカ)。

#### (3) 台北市内植物園

ビルや住宅が密集して緑の少ない台北市街地の中にあつて、狭いながら小鳥達にとってのオアシス的存在になっていた(ゴシキドリ、ベニバト、カノコバト、トラツグミ)。

#### (4) 新店川

市内新店川の華中橋付近。川幅100m位で隣接する左岸側が公園として整備中(マミハウチワドリ)

### 6. 全出現種リスト

アオサギ、アマサギ、コサギ、ゴイサギ、コガモ(新店川約1000羽)、台湾オオタカ(鳥来1羽)、ノスリ、カンムリワシ(鳥来2羽、故宮博物館5羽)、テッケイ、ドバト、カノコバト、ベニバト、カワセミ、ゴシキドリ(植物園3羽)、セグロコガラ、ヒメアマツバメ、台湾ヒバリ、ツバメ、リュウキュウツバメ、台湾ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ホホシロハクセキレイ、キセキレイ、ベニサンショウクイ(八仙山、鳥来)、クロヒヨドリ、シロガシラ、カヤノボリ、台湾モズ、カワガラス、ルリチョウ(鳥来)、カワビタキ、アカハラ、トラツグミ、メジロチメドリ、タケドリ、ミミジロチメドリ、ヤブドリ、ズアカチメドリ、アオチメドリ、ウグイス、マミハウチワドリ(新店川)、ズアカエナガ、ヒガラ、キバラシジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、イカル、スズメ、ハッカチョウ、ムクドリ、ヒメオウチュウ(八仙山、鳥来)、ハシブトガラス、台湾オナガ、タイリクホイビ、カバイロハッカ、シギsp、ガビチョウsp、冠の有る鳥sp、番外(台湾ンザル、台湾ンリス)

### 7. 現地案内者 台湾鳥学会の次の方に案内していただいた。

台中：林 金池氏、 台北：謝 章政氏 (取りまとめ 粕谷和夫)

カワセミ

北平章

私が病気のリハビリのため、山梨の病院へ入院していた時のことである。

或る日、午後の作業療法の訓練で集まった患者の中で、テーブルの向かい側に座っている女性が、たまたま野鳥のことに興味を持っていて、先生を交えて話はずみ、私が“カッコウ”について「この鳥は、夏鳥でオオヨシキリなどの巣に、托卵といって自分の卵を生み付け、かえった雛は他のヒナを巣からけり落とし、自分だけ育つ悪い奴！」などの話をしてやると「うん、うん」と手まねで喜んでいた。

すると、突然ワープロのような物をとり出して打ち出した。

しばらく様子を見てみると、単語を打ち一区切りしたところで、うなずくと、スイッチ・オン・・・・

すると音声が出た「カワセミ・・・??」、よく聞きとれない。

カワセミが何ですか？・・・もう一度言って下さい・・・

その人は言葉を話せないのである・・・先生が通訳をしてくれると又、ワープロを打ち直し、そしてスイッチ・オン「カワセミのコエをキキマシタ」・・・え、何処でですか？「ウエノ」「ヘヤデ」・・・ああ、そうですか、よく判りました、勿論朝早くですね？・・・その人は、嬉しそうに「ウン、ウン」とうなずいた。

そのことがあってから、時折その人を見かけることがあると、必らず野鳥の話をした。

私が話を始めると生き生きと目をみはっていた。

それからというもの、私は毎朝温泉街を流れる川に沿って、双眼鏡を首にぶる下げ、Bird Watchingをしたことは云うまでもない。

足の痛さも疲れも忘れ、ひたすら「カワセミ」を探し求めた。しかしあつという間に退院の日が来てしまい、残念ながら「カワセミ」を発見することが出来ませんでした。

車椅子の口のきけない彼女はどのようにしているだろうか・・・・

1994年の夏は暑かった！

※（入院中に観た野鳥 カッコウ、オオヨシキリ、ゴイサギ、コサギなど22種）

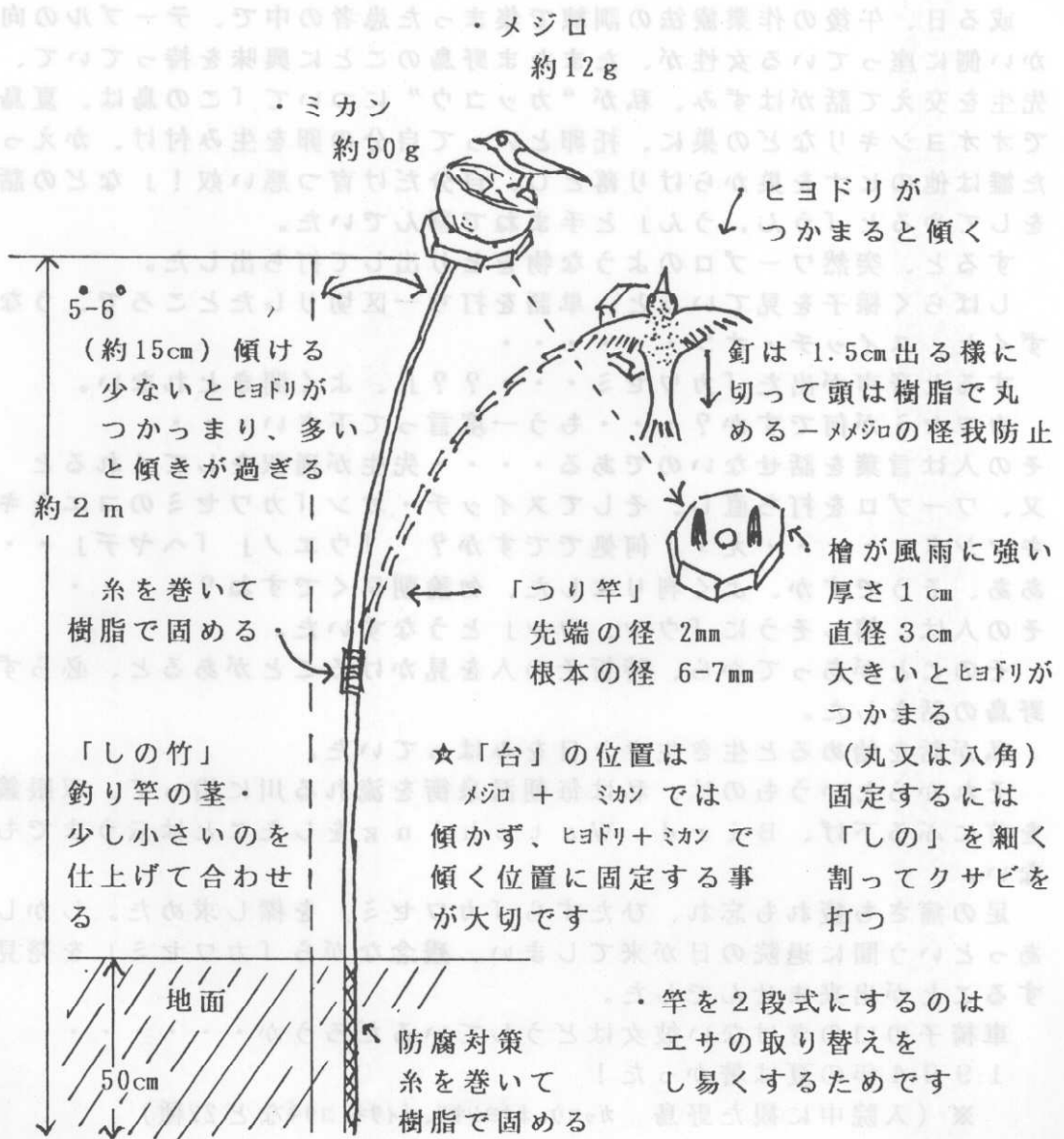


# 「ミニサンクチュアリ用品の作り方」

—メジロの餌台—

栗原 勝

庭に置くエサ台では、皆さんなかなか苦勞されておられると思います。そこで、私が考案した「ヒヨドリ」に獲られない「メジロ」用のミカンのエサ台を紹介いたします。





## 台湾探鳥会について

今井達郎

八王子カワセミ会10周年記念行事の一環として計画されたこの探鳥会が、成功裡に終了し色鮮やかな南方系の野鳥の姿が目に焼き付いて感激している処に、この報告の執筆が割当てられてしまいました。参加者10名中最年長の私(1922年生れ)の意見も加えようということでしょう。

バードウォッチングは年寄の健康維持やボケ防止に最も良い趣味と考えております。それは適度に歩くし、鳥に出会い或いは‘さえずり’を聞く度に、その鳥の名前が気に掛かるようになったからです。ハトやカラス・スズメもただ見過ごすことができなくなりました。探鳥会のグループには、老若男女・職業・趣味や特技の異なる人々が参加していて多くの刺激を与えてくれます。近頃私の耳はある種の鳥の声を受付なくなり、鳥を見つけるのも遅いけれども、皆の後をついて歩き少しでも多くの鳥を見せてもらうよう努力しているところです。

さて、台中で最初に出合った鳥はベニサンショウクイで、腹が紅色の雄と黄色の雌の番でした。誠に鮮やかな色の取合せです。可愛らしいカワビタギ、長い尾の先が割れているヒメオウチュウ、イカルの大群の飛翔等、強く印象に残っています。

次の探鳥地の烏来(ウライ)では、山を下る道端の生け垣の蔭をサッと飛ぶ鳥影がありました。何だろうとそれを追う、「アッ、ルリチョウだ！」の声に皆が色めきだって走る。やっと戻ってきたルリチョウを確認した時、「今井さん見た？」と声が掛かる、「はい、見ました、見ました」と答えて、皆が安心して先へ進む。珍しい鳥を見て一人満足するのではなく、仲間全員が同じ体験をしようという意識が非常に嬉しい。このルリチョウはあとで望遠鏡でじっくりと見ることができましたが、名前負けの鳥という感じでした。ここでは、カンムリワシ・タイワンオオタカも見つけて貰いました。

台北の植物園では、家族と思われるゴシキドリをじっくりとみることができました。

現地では、台湾野鳥の会会員の案内で、言葉の不自由さを全く感ずることなく、楽しい旅行でした。今回出会うことのできなかつたヤマムスメ・ヒゴロモなどを見に、次の機会には台南を含めた探鳥会に是非参加したいと考えています。



## 台湾探鳥旅行に参加して

河村洋子

街路樹のカポックという花が薄橙色の大きな花を付け、台湾はちょうど日本の5月の季節。お天気が悪くちょっと肌寒かったけれど。

初日は移動のバスの窓から街中に溢れる漢字のウオッチングを楽しんだ。

2日目、雨の中、果たして鳥が姿を現すのだろうか、不安な気持ちで向かった八仙山だったが、佳保台という所は、絶好の探鳥ポイントだった。スコープで最初に対面したのはベニサンショウクイ。雄の紅色はハツとする程艶やかで、雌の黄色も美しく、私はいっぺんにこの鳥に魅せられてしまった。

赤い嘴のクロヒヨドリ、光線の具合できれいなルリ色に見えたヒメオウチウウ、ベニサンショウクイ、この三種は大抵セットで観られるそうだ。

溪流ではカワピタキが繁殖期を迎えているらしく、雄が茶色い尻尾をパッと広げた姿が印象的。

日本との共通種も多いようで、カワセミ、カワガラス、イカルの群れなど、お馴染みの鳥もかなりいた。

谷関の発電所で大いに期待したヤマムスメは姿を見せず、シロガシラやカヤノボリなどをじっくり観た。

3日目、鳥来でもベニサンショウクイは美しい姿を何度も見せてくれた。ミミチメドリ、アオチメドリなど出たものの、ヤマムスメ、ゴシキドリはとうとう姿を現さず、後ろ髪を引かれる思いで帰ろうとしていた時、カンムリワシとタイワンオオタカの出現、続いてルリチョウ二羽が美しい青紫色の姿を見せてくれた。消化不良を起こしそうだった一行十名、気分良く鳥来を後にすることができた。

台北植物園ではベニバト、カノコバト、トラツグミ、籠抜けの鳥など鳴き声も賑やかで鳥の数も非常に多かった。中でもワクワクドキドキしたゴシキドリ三羽との出逢い。全体が鮮やかな緑、頭部、喉元が黄色、赤、水色で日本ではなかなか観られない熱帯系の色だ。

ちょっと立ち寄った新居川ではマミハウチワドリを観ることができた。

最終日、早朝散歩でハッカチョウを観た。オウチュウには出逢えなかったが、シロガシラは街の中でも普通に観られ、なかなかの美声の持ち主だった。

故宮博物館へ見学に行った折、バックの山の上空に舞う六羽のカンムリワシの雄姿を観た。

台湾野鳥界のスターと言われるヤマムスメやタイワンシジュウカラに出逢えなかったけれど、楽しくワクワクする探鳥旅行だった。又の機会に期待したいもの。

現地で案内して下さった、林さん、謝さんに感謝。

## 霞ヶ浦キャンプ探鳥会

(4月29日～30日)

原田 佳世

新緑の美しい晴天の下、3台の車に分乗り一路霞ヶ浦へ。途中で会長と古山さんご一家と合流する。霞ヶ浦付近は、一面の蓮田である。私にとっては初めての景色、長いゴム服を着て腰以上埋まってハスを収穫している姿が時折見られる。ハスの根がツンツン飛び出している田もあれば、取り終えたかただ泥田の所もある。深い屋敷森に囲まれた黒い瓦屋根の立派な家々があり、様々な色の大小10匹も従えたコイノボリが風に悠然と泳いでいたりする。

そんな景色を楽しんでいると、早速鳥たちが現れてくれる。ポイント毎に車を止め、付近を歩いて観察する。目立つのは、バン、オオバン、ツグミ、ヒバリ。数組いたバーダーの注目の的は、1羽のエリマキシギ。電柱の天辺にサシバが長く止まり、喉下の黒いラインがよく見える。やがて森の方に飛び去り、ゆっくり旋回していた。

東村水田では、ムナグロの夏羽の大群、チュウシャクシギ、ハマシギなど。図鑑を出す暇もない位、次々私には初めての鳥が現れる。農作業中の女性の僅か数mの所に、オスのキジが犬の如くウロウロしていたりする。

次のポイントでは、メダイチドリの大群、首回りのオレンジがかった明るい茶色が印象的である。その中に、異形の者、キョウジョシギが3羽、しきりに田をつついては、5cm位の虫らしき物を引っ張り出している。

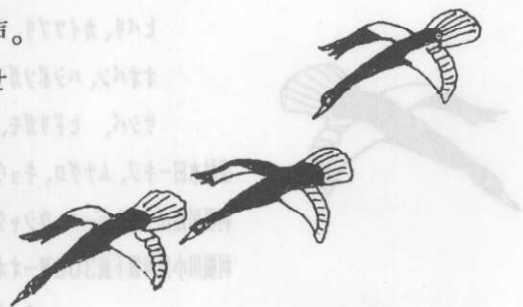
本日のハイライト、チュウシャクシギのねぐらとなる利根川の休耕田へ。彼方の空を見上げると、「来た、来た」と誰かの声。

「今日は早いねえ」と会長。我々に合わせたかのように、数百の黒い姿がぐんぐん近付き、目の前の葦原にザッと消えていく。

時間をおいて又次の集団が、と言う風に繰り返され、トータルで千羽位か。

チュウヒが1羽、その葦原の上を低くいつまでも旋回していた。

そのねぐらの道をへだてた河原寄りには、オオセッカ、セッカ、コジュリン



オオヨシキリの領域。賑やかである。

釣りから上がってきたおじさんに、「呑気でいいねえ、日本経済は大変だと言うのに…いいねえ、みんな良い顔してますよ」と、お褒め(?)の言葉を戴く。普段、都会で職場で、私たちは冠羽を逆立て、なにかしら緊張状態にあるのかもしれない。しかし、人とていない葦原や彼方の河向うから吹き渡る風を前に、全くの無防備。氏、素性、社会的地位関係なし。他人から見たら、頬の緩んだ、さぞかし呑気な顔をしているに違いないと納得。でもこの方、校長を定年退職し、毎日釣り三昧とか。なんだ、正真正銘の呑気者は、おじさんの方では。

キャンプ地では、一晩中かなりの雨が降り、日頃の行いのせいかどうか、水浸しになった方もいらしたようだ。

翌日はなんとか傘のいらぬ程度には雨が上がり、浮島へ。今までのシギ類に加え、ツルシギ、ソリハシシギ、又、コアジサシもゆっくり観察できた。コアジサシのコロニーは今年はまだ出来ていなかった。天気の様子から、ここで探鳥会終了とし、鳥合わせ後、筑波に帰られる会長とお別れし、それぞれの車で晴れ間のひろがり始めた新緑の美しいハイウェイを八王子へと向かった。

高尾山と多摩川の探鳥しか知らなかった私にとって、今回は鳥の多様さと言ひ、自然のスケールの大きさと言ひ、三段跳びをしたような心境である。こんな楽しい遠出も、会長の事前調査、車を出してくださった方々がいらっしやらなければ、叶わない事でした。この場をお借りして、心から御礼申し上げます。

参加者：粕谷、福島、柚木、山崎ご夫妻、門口ご夫妻、三好、鈴木、馬場、原田



沖宿、出島村戸崎…ユリカモメ、ムクドリ、ツグミ、コガモ、コサギ、オオヨシキリ、  
ヒバリ、カイツブリ、カルガモ、ヒヨドリ、セッカ、エリマキシギ、ウグイス、  
オオバン、ハシボソガラス、スズメ、バン、チュウサギ、セグロセキレイ、タシギ、  
サシバ、ヒドリガモ、マガモ、ツバメ、ハシビロガモ、ハクセキレイ、カワウ、アオサギ  
東村水田…キジ、ムナグロ、キョウジョシギ、ハマシギ  
利根川左岸 佐倉市…チュウシャクシギ、メダイチドリ、キョウジョシギ、トウネン、ムナグロ  
利根川小見川橋下流300M…オオセッカ、コジュリン、セッカ、オオヨシキリ、  
チュウヒ、チュウシャクシギ、アオサギ、ウグイス、  
浮島…タシギ、スズメ、セッカ、ヒバリ、オオセッカ、コアジサシ、アオアシシギ、  
ムナグロ、キョウジョウシギ、ツルシギ、コジュリン、ツグミ、カルガモ、ドバト、ユリカモメ  
ツバメ、キジバト、チュウシャクシギ、ムクドリ、キアシシギ、ソリハシシギ、アオサギ、  
ハシボソガラス



## 舢倉島探鳥記 5.3 ~ 5.6



舢倉島は遠い 5月3日、早朝 6:30 に八王子を車で出発。メンバーは馬場さん(♂)、門口さん(♀)、小沢さん(♀)、山崎さん(♂、♀)、河村さん(♀)、柚木さん(♀)、古山(♂)の8名。当初の予定は中央道で豊科ICへ、一般道を北上、糸魚川から北陸道に乗り、金沢、そして輪島へだったのが、ラジオの交通情報を聞き、関越道で長岡JCTから北陸道に入るルートに急遽変更した。何度か渋滞にはまりながら、18:30 輪島に着く。

鳥だらけの島 5月4日、輪島 8:30発 定期船へぐらに乗船。波も思ったより穏やか。10:20 舢倉島着。下船後、民宿‘つき’を目指して歩く。島の大きさが感覚としてつかめない。地図を見ながら行ったのだが、知らぬ間に民宿の前を通り過ぎる。島を一周する前に気がつき、引き返す。休憩もほどほどに、さっそく探鳥に出発。まずは、島の概要を把握しようと、とりあえず一番標高が高いところ、すなわち、灯台のところに行ってみることにした(とはいっても海拔12.5mだが)。坂を登り、分校の所で鳥見人に会う。「なにかいますか?」「このさきにキマユホオジロとカラアカハラがいるよ」急に早足になる我々に「そんなに急がなくても大丈夫だよ」の声。新参者の我々はなかなか調子がかめない。そこの場所に着く直前、道路脇に鳥影が、双眼鏡で覗くとなんとノゴマの雄が出迎えてくれた。

キマユホオジロとカラアカハラは民家の庭先にいた。カメラマンもたくさんいた。保育所の裏に移動。ヒタキ類やムシクイ類を間近でみる。海岸線に移動。カラシラサギを遠くに見る。サシバが鳴きながら上空を飛ぶ。分校の校庭に戻ると…アトリ、マヒワ、ハチジョウツグミ、マミチャジナイ、コホオアカ、ノジコ、ウソなどが次々と現れる。夕方、海岸線の草地でコシャクシギを見つける。充実した一日であった。

ヤマショウビンの日 5月5日、朝4時半起床、5時過ぎから探鳥開始。カメラマンが餌付けしたコルリやコマドリを見る。サンショウクイやムネアカタヒバリ、マミジロタヒバリも見る。ヨタカやアリスイも出た。昼前、ヘリポートの所でアマサギを見つけ、近づくと突然、灯台の方から二人連れが飛び出してきた。興奮した声で「ヤマショウビンがたった今、こっちの方に飛んできたはずですが見ませんでしたか?」「えっ!」

ヤマショウビン騒動の幕は切って落とされた。のんびり昼食どころではない。「民宿‘つかさ’の裏の方に飛んだ」「竜神池の方に飛んだ」等々情報は乱れ飛ぶ。その方向に人の流れができる。しかし、情報の後追いでは姿がみられない。ヤマショウビンは神出鬼没で、やっと見られたのはだいぶ時間がたって諦めかけた時。遠くではあったが海岸線の岩場に止っているところを観察できた。なんとその後、飛立ったヤマショウビンは我々のすぐ目の前を横切り、松林に消えていった。対馬では5月3日を‘ヤマショウビンの日’(毎年決ってこの日に渡ってくるという)と言うらしいが、ここ舢倉島では5月5日が‘ヤマショウビンの日’となった。

ムクドリがなつかしい 5月6日、あらためて島を一周する。キアシシギが海の上で泳ぐのを見る。チュウシャクシギが1羽。ムクドリも1羽、海岸線の岩の上で休んでいた。この島で初めてみた。なぜかなつかしい。昼前、オガワコマドリがでたとの情報で一瞬、盛り上がったが結局、見られず。分校のグラウンドで早目の昼食とする。輪島に戻る船は 14:30発。1時間前には乗船できたが、出港までの間、バーダーの多くが荷物を船室に置くと双眼鏡のみぶら下げ、再び船を降り坂道を登って行く姿が見えた。最後のあがきというものか、我々も後に続く。保育所の裏の林は、きのうまでの賑やかさが嘘

のようにひっそりと静まりかえっていた。鳥達は既に旅立ったようだ。そして、我々には厳しく、苦しい1時間50分の船旅が待っていた…。〈古山隆〉

#### 探鳥後記

…センニュウ類、セキレイ類、そしてヒタキ類のメスなど、いかに普段キチッと鳥の姿形を確認していないか、ということを反省させられる旅となりました。鳥の姿の視認による僕のライフリストにはキマユホオジロ、カラアカハラ、カラシラサギ、マミチャジナイ、ハチジョウツグミ、ベニマシコ、マミジロタヒバリ、シベリアアオジ、コホオアカ、コシャクシギ、タイワンハクセキレイ、ムネアカタヒバリ、ヨタカ、そして、あのヤマショウビンが加わりました。ほとんど声なしで判別せねばならない難しさを体験し、また、いつもの図鑑の記述が必ずしも正しいのではないことも実感した貴重な探鳥行でした。〈馬場裕〉

…毎年、今年こそはと思っていたサンショウクイにやっと会えました。何度も姿を見せてくれたサンショウクイは思った通りシックでスマートで気品のある鳥でした。ヤマショウビンはじめ多くの珍鳥に出会い感動しましたが我々バーダーが島の方たちへかなりの迷惑をかけているようで心の片隅にひっかかっています。〈河村洋子〉

…鳥を見始めて3年目、憧れの舢倉島に行く。思ったより小さな島、歩いている人のほとんどが鳥見の人、島の人は遠慮して家にいるような感じだった。人のいる所に鳥がいる、コマドリの場所、コルリの場所などが名称がついていて、そこにカメラの人、‘バーダー’に載るような人まで来ている。あこがれのムギマキ、サンコウチョウ、もう一度会いたいヤツガシラはいなかった。予想していなかったヤマショウビン…にまさか舢倉島で再び会えるとは思わなかった。彼氏(?)はあいかわらずコントラストの強い装いをしていました。ムシクイ類、タヒバリ、ピンズイを日頃からじっくり見なければと思いました。(今回とても勉強不足を感じました) …私のベスト6:コシャクシギ、コホオアカ、アリスイ、クロジ、ノジコ、ベニマシコの♀ …PS. 船に酔ったけれどまた行きたい。こんどこそムギマキに会いたい。こんどは木に止っているヨタカを見たい。アリスイをじっくり見たい。〈柚木育子〉

…前々から一度行ってみたいと思っていた舢倉島探鳥に参加できた。離れ島での探鳥が初めての経験で、聞きしに勝る経験を得ることができた。今回の参加で、特に面白いと思ったことをまとめると次の3点になる。(1)イソヒヨドリを見てそのすぐ後にアトリを見る面白さ:普通、海岸で見る鳥と山に行つて見る鳥を同時に見るチャンスが無いので、戸惑うと同時に何が見られる解らない面白さがある。(2)一本の桜の木にアトリとマヒワとカワラヒワとアオジと一緒に群がっているのを見る面白さ:軽井沢や戸隠でもアトリを見る時はアトリだけ、別の場所ではマヒワだけ、という常識(?)が覆り、分校校庭では、経験の無い自分はパニック状態になった。(3)珍鳥のみでなく自分にとっての新種が増える面白さ:普通の探鳥会では1・2種増える場合、各々の特徴をしっかりと把握して、次回出会った時に確実に認識できるように、などと意識しているが、新種があまりにも多いと宿に帰ってからの復習でも頭の中で混乱が継続してしまう。でも、図鑑で見ていただけの鳥が現実に目の前に現れ、心躍る楽しい3日間でした。…以上を総括すると、舢倉島で会った沢山のいわゆる常連さんや「来週も来ます」と言っていた人達の気持ちが理解できる。確かに、どんな鳥に会えるか解らない点・何が起こるか解らない点に「はまる」ものが、離れ島には存在することを実感した。〈山崎悠一〉

…三日間、のんびりバードウォッチングをして過ごせたことは、とても良い日々でしたが、あの荒海での小舟の2時間は、生きた心地がしませんでした。ヨタカが空を飛んだ

時の翼の白い部分、ヤマショウビンの岩礁で見たくちばしの朱赤色、体の白と青の美しいコントラスト、心にやきついています。(山崎久美子)

…担いでいる望遠鏡の重さも忘れ、走りまわった舳倉島。忘れられない探鳥会になった。ノゴマ、マミチャジナイ、キマユホオジロ、カラシラサギなど、見るのも聞くのも初めての鳥ばかりである。図鑑を開き、望遠鏡を覗き、また図鑑で確認するの繰り返しである。校庭のハチジョウツグミの情報に駆けつけ、磯のヤマショウビンの知らせに、一斉に集まる。リーダーの後を追ひ、恥らいもなくしつこく聞く3日間で、なんと19種の初認の鳥を数えた。これで今年目標である200種を越えることができた。…日本海の小さな孤島に、必死の思いで渡り着いたであろうキクイタダキのボロボロになった羽を見ると、“渡りのロマン”とは、ほど遠い光景でいじらしくなってくる。彼等にとっては、種を守るための命がけの渡りなのだ。この島で羽を休め、体力を回復して、次の目的地に向けて旅立つのである。…舳倉島の5月は、野鳥の園である。浅川の10年分の野鳥を、3日間で見る事が出来た。今後、経済の発展にともない、この島も地域振興と言う名の開発の槌音が響き渡るのだろうか。何時までも、このままの島であってほしいと願うのは、都会の人間のエゴだろうか。渡りの途中に安全に羽を休める場所が年々減っている今、野鳥と共存する方法を探る必要を感じた。まず、この時期に来島するバードウォッチャー、写真家が無制限に増加するのをおさえるとともに、島民の生活を守る手立てをする必要があるのではないか。いろいろ考えさせられた探鳥会でもあった。(門口裕子)

…最高海拔12.5mという平らな島、舳倉島が眼前に現れたのは、輪島から一時間程してからでした。高潮や津波に襲われたら一たまりもないような島でしたが、これからの島での三日間を考えると、飛んでいきたいような気持ちになりました。そして、期待にたがわず舳倉島は私に本当に素晴らしい与えてくれました。…道端でえさをついばむノゴマ、人家の庭先のキマユホオジロやカラアカハラ、会いたい会いたいと思っていた赤い鳥達にも会うことができました。目の前を真っ赤な嘴に白班のある青い翼を広げて飛ぶヤマショウビンを見た時は俄かに信じ難い気持ちでした。三日間はあっという間に過ぎ、後ろ髪を引かれる思いで島を後にしました。…しかし、同時に、この島が鳥たちにとっては命の島であることを肝に命じた旅でもありました。やっと島にたどりついた鳥たちにとって私がどう映っていたのかと思うと恥ずかしくなります。…幼稚園の園庭でぐったり地面に横になっていたキクイタダキ、地面に降り立った瞬間に猫にとらえられたしまったコサメビタキ。いずれも山で出会う機敏な鳥達の姿とは程遠いものでした。…これから山や川、森が野鳥の楽園であり続けるために、鳥を驚かさない細心の注意を払っていきたいと思いました。(小沢礼子)

**観察した鳥** オミズナギドリ、ウミウ、ヒメウ、ゴイサギ、サゴイ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、カラシラサギ、アオサギ、カカモ、ウミアイサ、トビ、サシバ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウ、ハシロ、ムクゲ、キョウジヨシキ、クササギ、キアサギ、イソサギ、チュウシャクサギ、コジャクサギ、アカヒレアサギ、セグロカモメ、ウミネコ、キジバト、ヨツカ、アマツバメ、ヤマショウビン、アリス、ツバメ、コシアカツバメ、(キマユ)ツメナギセキレイ、キセキレイ、(タイワン)ハクセキレイ、マシロクハバリ、ピンズイ、ムネアカクハバリ、クハバリ、サンショウクイ、ヒヨドリ、コマドリ、ノゴマ、コルリ、ルリビタキ、ヒタキ、イソヒヨドリ、トラツグミ、カラアカハラ、アカハラ、シロハラ、マミチャジナイ、(ハチジョウ)ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、メボソムシクイ、エゾムシクイ、センダングラ、ムシクイ、キクイタダキ、キビタキ、オオルリ、エゾビタキ、コサメビタキ、ヒガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、コホオアカ、キマユホオジロ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、ノゾコ、(シバリ)アオジ、クロジ、アトリ、カラヅメ、マヒワ、ベニマシコ、(アカ)ウリ、イカル、シメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計89種



## 入笠山探鳥会に参加して

1995. 6. 10-11.

大川征治、香

私共は今年1月の探鳥会から参加させていただいております。今回入笠山探鳥会の案内をいただき、はたして歩けるものか不安でしたが、門口さんの「大丈夫ですよ」の助言で参加することにしました。

前日からの雨が残り、悪天候覚悟の出発となったが、甲府駅を過ぎる頃には雨もあがり、青柳駅に到着した時は快晴となった。

駅を出るとオオヨシキリが大きな声で出迎え、私共が初めて見るカッコウがすぐ近くに飛来しての歓迎で、期待のもてる探鳥会出発となる。

ヒガラ等を観ながら唐松林の山道に入ると、大きな合唱はハルゼミとのことで鳥の鳴き声も聞き取れないほどの賑やかさだ。途中鉄柱の穴にヒガラが営巣しているのを発見、巧い場所を利用するものだと感心。

急な坂道が続き疲れてくるとタイミング良くホオジロやコルリなどが現れて小休止となる。八ヶ岳連峰がくっきり見える場所で昼食となる。ウグイスなどが近くでさえずり、心地良い。

更に進むと唐松の梢でアオジが美声を聞かせてくれ、初めて聞く声に感動した。

三時半頃、マナスル山荘に到着。キセキレイが宿のアンテナの上で歓迎してくれる。

荷物を置き、入笠山に登る。急坂を息を切らしながら進むとヒガラが直ぐ近くまで来て、体に似合わず大きな声でさえずり、疲れもとれる。

山頂からは四方の山々がくっきりと見え、参加して良かったとつくづく思った。カッコウも直ぐ近くでさえずり、自然の良さを味わう。

夕食、部屋での語らいと楽しい一時を過ごし、その儘静かに就床??

翌日は、午前5時から早朝探鳥で涼気が気持ち良い。

モズ、カッコウ、シジュウカラなど次々に現れ、この高原の鳥の多さには驚くばかり。ウソも繁みに姿を見せ黒と橙色と灰色のコントラストが木々の緑とマッチしてほんとうに美しく、図鑑で観るのとは大違い。ルリビタキの美声を聞きながら牧場に着くと、正面に雪を頂く槍ヶ岳などの北アルプスの山々や木曾駒ヶ岳などが大パノラマでくっきり。こんなに良く見えるのも珍しい。

8時10分、宿を出発し大阿原湿原に向かう。

今日も鳥の名前や声を教わりながら進むと、ホオジロ、コサメビタキ、ヒガラ、ミソサザイ、ジュウイチなどが次々に現れて、足取りも軽い。湿原では、高木の梢に腹に横縞の無い（尾の近くに数本縞が有るだけ）

杜鵑の一種を見付け、一同カッコウかどうかと議論となった。

下山路に入り、熊笹の生繁る小道を黙々とくだる。唐松の人工林のためか鳥は少ない。自然林の大切さを痛感する。

途中、モズ、カワラヒワ、アカゲラなどを観て午後2時30分ごろ富士見駅に到着。

鈍行列車を乗り継ぎながら帰途についた。車内で鳥合わせをしたが、総数で44種を確認し、ベストはカッコウ、ウソ、ルリビタキ、コサメビタキの4種に決定。

同行の三好さんの万歩計によると、第1日目は1万3千歩、2日目は2万3千歩を記録したとのことで、良く歩いたものだと感じた。

甲府駅でビールと立ち食いソバを補給し、座席でウツラ・・・しながら帰路につく。

最後に、参加の皆様いろいろな世話になりました。紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

#### [認めた鳥]

オオヨシキリ、カッコウ、ムクドリ、ヒヨドリ、スズメ、モズ、シジュウカラ、ツバメ、ウグイス、ヒガラ、コルリ（声）、ウソ、ルリビタキ、ゴジュウカラ、イワツバメ、オナガ、トビ、ハシボソカラス、ハシブトカラス、メジロ、ホオジロ、コゲラ、ホトトギス、ピンズイ、サシバSP、メボソムシクイ、カケス、エナガ、アオジ、キセキレイ、ジュウイチ、ノスリ、ヤマガラ、ツツドリ、コサメビタキ、コガラ、アカゲラ、キジバト、コマドリ（声）、ミソサザイ、カワラヒワ、クロツグミ（声）、キジ、センダイムシクイ、以上44種。

#### [参加者]

今村和子、大関 豊、尾又英雄、門口一雄、門口裕子、馬場 裕、山崎悠一、山崎久美子、三好恒雄、柚木育子、横山由美子、渡辺美咲穂、大川征治、大川 香、以上14名



# さいはて礼文島

1995-7-16

南陽台:馬場 裕

手を伸ばせばさわれるほどの頭上をウミネコが飛び交い、海に落ちる険しい崖の頂、エゾキスゲの咲く叢でリシリコマドリやエゾセンニュウがほがらかに歌う。迎えの車から民宿の並ぶ狭い道に一人降り立ち、霧空と波頭の境い目を追えば間近にせまる利尻の山容と、起伏の乏しい陸地が遠くかすかに続いている。サロベツの北、抜海、湧知のあたりだろうか。来た。とうとうやって来た、礼文へ。

30年近くも昔、先輩の放浪記を載せるため部の会報を編集して以来、夢にも見あこがれ続けた島について足を踏み入れた。桃岩の奇観やスコトン岬から望む樺太のロマンなど、当時からここは孤独な旅を好む若者の聖地だったが、いまや、身のほども知らず花鳥をたしなむ凡夫には格別の所となった。

電線からこちらを見張るカッコウに悟られぬよう濃霧の流れ来るなか、知床より延々と笹道を登る。鋏を持つ婦人にスコープでノゴマを見せると、「のどあか」よと教えてくれた。足元から羽音を驚かせてオオジシギ?が飛び去り、コヨシキリと紛れて囀るシマセンニュウやノビタキなどを飽きるほど通り過ぎす。オオカサモチ、コウリントンポポの草原を越え、灯台そばのベンチでしばし休憩。のどかなツツドリの声とアマツバメの群れに歓迎されるも、周遊路のまわりに咲きはじめた薄雪草の花期はいま少し先と聞いた。元地から北の岬や船泊までヒッチハイクし、群生地を訪ねた彼の敦盛草はすでに2株ほどを残すのみ。が、哀しげだが静かな気品に満ちた姿を初見、堪能した。便乗させてもらった土建屋のご夫妻と別れて久種湖へ。湖を見おろす荒れ野の灌木にベニマシコ(♂)、その上空ではオジロワシ(幼鳥2羽)がカラスと遊んでいた。旅程から西海岸・花の道を踏破できず心残りだったが、島はいたるところお花畑で、カラフトハナシノブ、チシマフウロといった特産種が咲き競っていた。世に云う天国や桃源境は正にここと感じたことであった。

礼文の前日、6月17日には利尻島をレンタカーで一周し、帰途には稚内市大沼周辺を散策したが、下表の通りその鳥相はかなり異っていた。利尻は新しい火山島で標高差が大きく、巨木の森が広がっている。森林公園、姫沼、オタドリ沼などを巡り、エゾムシクイ、ミソサザイ、アカゲラをはじめ主に山の鳥を観察した。

一方、思いがけずも、3年ぶりでキマユツメナガセキレイに逢えた大沼は、白鳥に魅せられた漁師・吉田氏の話によれば、数年後にはウトナイ湖に連なる水鳥達の中継地にしたいとのこと。今後、渡りの時期にでもぜひ再訪したい拠点である。

<b>利尻</b> アカゲラ、カラスハトSP ミソサザイ、イソヒトリ エゾムシクイ、コムクドリ	<b>利尻、礼文</b> カウ、オセグロカモメ、カ ッコウ、ツツドリ、アマツバメ、リシリコマドリ エゾセンニュウ、アオジ、ハジツトカラス	<b>利尻、大沼</b> キジハト、ヒバリ  【各1種】
	<b>礼文</b> オジロワシ、オジシギSP ノゴマ、シマセンニュウ	<b>礼文、大沼</b> コヨシキリ
<b>利尻、礼文、大沼</b> ウミネコ、ハクセキレイ、ルビキ、ウグイス、カラヒツ ベニマシコ、スズメ、ハジツトカラス (合計: 36種・亜種)		<b>大沼</b> アオサギ、マガモ、トビ、トハト キマユツメナガセキレイ、マシロツメナガセキレイ

表: [各地] (6/16~17利尻、6/18礼文、6/19大沼) の観察種。[下線は初見種] 以上

# 鳥の鳴声いろいろについて



駒ヶ根市 平 沢 辰 夫

鳥には所謂地鳴きと、囀りがあることはちよつと関心のある人なら知っていることですが、その外に偽鳴き（物真似）つぶやき、ぐぜり（こんな言葉は並みの辞書にはないぐずる、或いは口説りなどから来ているのでしょうか？）などいろいろの声を聞くことはなかなか機会に恵まれないと無理でしょう。

鳥の集団囀りなどの観察をやっている人ならよく知っていると思いますが、ねぐらの下でじっときいていると、沢山の鳥達がひっきりなしにジクジクグチグチと結構賑やかな声が聞かれますが、これらの声が彼らの情報交換、意志伝達をしているものなのか、単なるつぶやきやぐぜりだけのものなのかは分かりませんが、とにかく賑やかなものです。

私は、勤め人を定年後、とにかく自然の中で鳥でも見ながら出来る仕事を求めて、東京での3年余りは多摩丘陵の山の中で遺蹟掘りの仕事を、信州に移ってからは、中ア観光のリゾートで夏は駒ヶ根高原家族旅行村、冬はスキー場と、文字どおりのアウトドアで自然の中で働いているお陰で、何回となくこうした場面を観察して驚かされていますが、私が一番最初にこのことに関心を持ったのは、遺蹟の仕事の昼休みに山で寝ていた時、なんとも聞いたことのない鳥の音が気になり、ひょいと見るとなんとすぐ近くの枯草に止まっているジョウビタキの雄ではありませんか。

ジョウビタキの声といえばあのヒーッという声とハタハタと聞こえる声ぐらいしか知らなかったのに、全く複雑な囀りともつぶやきとも分からない声で飽くことなく鳴いているのです。もうぼつぼつ渡りの季節だったし、繁殖地に行つてからの囀りの前段かなと思ひながら聞耳を立てていたものです。

信州の山では、カケス、カシラダカ、メジロなどのこうした現象をよく聞きます。特に、林の中で、まったく得体の分からない声に何だ何だと探して結局カケスの声だと分かっても本当に信じられない思いをしたことが何回もあります。

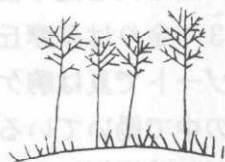
カケスといえば、私の古い友人が、カケスの巣から雛を失敬してきて家で飼っていたら家族の「じいちゃん」「おはよう」「いってらっしゃい」「ただいま」から、ボロ軽トラのエンジンがなかなかかからない時のセルの音まで真似るようになった話を大笑いしながら聞いたことがあります。カケスの物真似もなかなかのものです。

野鳥の偽鳴き（ものまね）の名手はなんといってもモズ、ヒヨドリでしょう。ヒヨドリなどは一体自分の鳴声はどれだい？と言いたい程だし、モズがウグイスやイカル、コジュケイ、ヒバリなどの声を真似るのはまったく真に迫っていて苦笑させられることしばしばですが、大体こうした物真似やぐぜりは、自分本来の鳴声（特に縄張り宣言）よりはるかに声量は低いようです。モズはウグイスの俗に“谷渡り”と言われる声（警戒音）も真似ますが、あんなに高い声ではありません、モズが餌として他の鳥をおびき寄せるのが目的という説もありますが、ヒヨドリなどのことも含めて考えると、私には単なる遊びか学習を楽しんでいるとしかおもえないのです。

今まで観察したところでは、概してカラ類などは比較的単純明快な鳴声ですが、つぶやき、ぐぜり、など複雑な声を出すのはヒタキ類やウグイス類に多いように思えます。

どうぞ、鳥の観察でこうしたところにも関心、注意を持ってみるのもまた楽しいものです。又、ぐぜりとかつぶやきなどの言葉のこととか、鳥のこうした変わった鳴き方についての参考書などや、ご経験などお持ちの方、是非お知らせ下されば幸いです。

### 雑木林（由木を歩く）



多摩丘陵の自然を守る会の発足は1985年で八王子カワセミ会の発足と同じ年であった。同会は1995年3月、10周年記念誌「雑木林（由木を歩く）」と「由木のみにどりマップ」を発行した。

同会は多摩丘陵に大規模な車検場建設計画が起こった頃から「自分達の緑は自分達で守る」という教訓を基に活動を始めたもので、自然保護を目的に掲げながらも何でも反対でなく、「自然と調和する開発」のための緑の保護を念頭において活動をしてきた。

具体的には月1回の割で丘陵を歩く自然観察会を日常活動としながら、現実には目の前で開発が進行している多摩ニュータウンやそこに連動する各種の開発に対し、緑を出来る限り残すための要望や提言を行ってきた。しかし、現実には多摩丘陵一面の緑の絨毯がいつのまにか、まるで大群の虫に喰いつぶされたかのように変貌してしまった。

このような中で会員の苦悩に満ちた活動記録と僅かに残された由木の自然を歩くコースが紹介されている。私達、八王子カワセミ会の活動にも多くの示唆が与えられる本である（1部1,000円、購入希望の方は粕谷へ）。



## 1. 連雀乱舞。

こちらに来て実行している事があります。それは家の中を禁煙にした事で、煙草は外で吸っています。てっとりばやく言えば『ホタル族』の仲間入りをしたわけで、冬はつらいものがありました。けれども、良いこともあって本数が減ったし、なによりもその時間がちょっとした探鳥タイムになり、思わぬ収穫があることです。私の家の北と南にある小川の川添いに、くぬぎや松の木が残されていて様々な野鳥が行き来しており、居ながらにしてミニ探鳥ができます。

“彼岸”もまじかな三月十六日、小雨がパラついていました。この日のバイトは三時半、出かける前にちょっと一服と、いつもの場所でいつもの様に、外を見ながら煙草をふかせておりました。するとなにやら頭上に鳥の群れ、「なんだろう？」と思いつつ「双眼鏡は車の中だし、」などと考えながら目で追うと、ヒリリーヒリリーと南側の木立に止まるかな…と思ったら、木立を越えて飛んで行ってしまいました。木に止まったら双眼鏡で見てもやろうと構えていたのに残念、と思った時、脳裏をよぎったのは、忘れもしない四年前の平成三年三月三日、日野台のあのシーン、そしてあの鳴き声でした。(奇跡の333デー)

もしかしたら、ひょっとすると、いいやそうに違いない、と慌てて車に乗り込み、その先で降りている事を念じて捜しました。リンゴの木、テレビのアンテナ遠くの林、そして電線、いた！ピッシリと七～八十羽、止まっています。ドキドキしながら覗いた双眼鏡の中に見えた鳥は、まさしくレンジャクでした。ほとんどがヒレンジャクのようなようです。未練を残しつつ、この日はバイトに行きました。

翌日九時、同場所、同電線に群れていたレンジャクは総数 122羽、キレンジャクは見当たらず、すべてヒレンジャクでした。近寄ると鈴を転がした様なあの澄んだ声でヒリリン、ヒリリンと鳴き交しています。午後三時頃には、家の南側の木立にもやって来ました。この日一日、ヒリリーヒリリーと鳴きながら付近を飛び回っており、それはそれは見事なものでした。今年は、レンジャクの当たり年なののでしょうか、その後も何度かやってきて、楽しませてくれました。

## 【自宅付近のレンジャク飛来数】

3/16	70 +	3/24	80 +	4/06	100 +	4/11	20 +
3/17	122羽	3/28	60 +	4/07	120 +	4/18	12羽

## 2. ある調査。

夏鳥も出そろった六月初旬、近々アカショウビンの探索に行こうかと思っていた折、先日入会した「信州野鳥の会」の事務局の西澤さんから、ある依頼がありました。それは『ミヤマホオジロの声を聞いたが同定できずにいる。繁殖しているかもしれない。調査してほしい。』という内容で、渡された物は一枚の地図と一本のテープでした。地図には場所（Y山X地点としましょう）と道順、テープにはさえずりがはいており、考えてみれば、さえずっているミヤマホオジロなんて見たことないし、そもそも、この時期に生息していること事態が異変です。

六月十六日、まず下見に出かけました。目指すはY山、目標は大きな桑の木。隣の山まで行き過ぎたり、道を間違えること三度。ようやくX地点に続く道にたどり着くも、軽四輪がやっとの細い山道で、多少の不安を感じつつ、このあたりかと着いた頃は、もう陽も高くなっていました。まずは桑の木を捜すべく付近を歩いてみました。道は尾根道で両側は谷、一部に赤松の群生がある他は雑木が多く、目標の大きな桑の木も、昔は桑畑だった所が放置されて大きくなったと聞いています。メジロ、ホオジロなどの声を聞きながら前後百メートル位、探しましたが桑の木は見つかりません。はてさて場所が違うか。目標は見つからなくてもX地点はこの付近と信じて、教えられたとおりカーステレオからM・ホオジロのさえずりを流してみました。が、いっこうに現れる気配いはなく、テープの声に圧されて自然の声が聞き取りにくく紛らわしいので途中で止めました。

今日は下見だし陽も高いし、などと妙な言い訳を心でつぶやきながらM・ホオジロを求めて歩き回っていると聞き慣れない声、こいつかと姿を探しても見つからない、枝がじゃまして梢が見えにくいのです。確認だけでもと向きを変え、位置を変え、探すも姿が見えません。然う斯うしている時、林の中を鳥が飛び、枝に止まりました。あわてて双眼鏡で見ると、顔に黒い過眼線、胸に黒いエプロンのM・ホオジロでした。ホオジロと同類ならば梢でさえずっているものと思っていたのが横枝に居たらしいのです。どうやら確認はできました。

何度か通っているうち、なかでも大きな「くぬぎ」の木に朝七時半過ぎ、さえずっている事や、少なくとも♂が2羽いる事などが解ってきました。何故この時期に生息しているのかは分っていません。「かごめけ」も考えられますが、西澤さんによると、さえずりを聞いたのは三年連続ということなので、何かのきっかけによって居ついてしまったのかもしれない。繁殖しているかどうかは、♀を確認できず、また巣も発見できないので不明です。七月に入ってから雨の日が多く、晴れ間をみては調査に行ったのですが姿が見えなくなり、繁殖の確認は来年の宿題となりそうです。



## 編集後記

- ◆ 今年は、太平洋戦争終結50年目である。地球上ではこの50年にどんなことがあり、どんな変化があったか。冷戦とその崩壊、民族紛争と宗教の対立、地球の温暖化現象と環境破壊の進行。50年の節目に当たり、半世紀を振り返って、今後の人類の進むべき方向に想いを致すとちみもうりょうとなる。
  
- ♥ 今年は、カワセミ会の10周年になる。記念行事として去る5月に野鳥展を開催し、大変盛況でした。来る11月には、記念探鳥会と記念講演を開催する計画です。また、10年間の探鳥記録集と会報の特集号を発行します。皆さん、こぞって参加しましょう。
  
- ♣ 当会は、先輩とか役員だとかの差別は無く、皆で一緒に野鳥の観察を楽しむことをモットーに活動しています。然しマナー化などの心配も無いわけではありません。会員の皆さんには、腹藏ないご意見、ご提案をどしどしお寄せ下さい。

業務用酒類食品専門卸



株式会社 **ジャックフル浦島屋**

〒192 八王子市元横山町 3 - 7 - 14

TEL (0426) 25 - 1477 (代表)

FAX (0426) 25 - 1248



Hachiōji  
Kawasemikai

カ　ワ　セ　ミ

1995年8月

— 第 15 号 —

発行人

粕谷和夫（八王子カワセミ会・会長）

編集人

三好恒雄

連絡先

八王子市中野上町5-29-3 TEL:0426-26-8634